

## 宗像市市民参画等推進審議会会議録（要旨）

|     |                                                                                                                  |
|-----|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 日 時 | 平成27年5月29日（金）8：45～18：00                                                                                          |
| 場 所 | 宗像市役所 103A・B会議室                                                                                                  |
| 委 員 | <p>■ 井上豊久、■ 河野和道、■ 志岐宏美、■ 中里留美子、■ 東博子、<br/>         ■ 前田誠、■ 松永年生、■ 南博、■ 山下恵美子、■ 吉田晴希<br/>         （五十音順、敬称略）</p> |
| 事務局 | <p>コミュニティ協働推進課；瀧口、村上、合島、新頭、神<br/>         元気な島づくり課；花田、武丸<br/>         むなかた市民フォーラム；梶栗、人見、雪松、立花、入江、森</p>           |

### 1. はじめに

- ①審査の進め方について確認
- ②新規事業について、事務局の事前調整の報告、参考資料の配布
- ③前田委員あいさつ

### 2. 個別審査

《103A会議室分》

#### 1. 鐘崎マルシェ企画運営委員会「青空市場「鐘崎マルシェ」で元気づくり」

団体から、提案内容について説明

- 販売者は、地元の方なのか。業者も入っているのか。  
 ⇒業者はいない。道の駅に出品している人はいるが、基本は地元の方。
- 団体の構成員は、他に仕事を持っているのか。  
 ⇒他に別に仕事を持っていて、当日手伝っていただいている。農業もいれば漁師もいる。私は講師業をしている。
- 昨年度、荒天により開催されなかったケースがあるということだが、今年度の荒天時の場所など、どう考えているか。  
 ⇒去年は2回、台風で。当日は全く無風になったが、前日に判断して中止にした。一つ考えているのは、コミセンのホールを借りる。しかし、街中からコミセンの間に、荒天時に浜辺を歩くのが、という問題があって難しいということで、簡易テントも飛ぶような状態なので、去年は中止にしたが、延期にしようかと考えている。基本平日にしているのは、勤めていない方、高齢者など平日居る方を対象にして、店を出す方も平日居る方としているので、減るかもしれないが次の日とか、という形でいこうかと考えている。
- 雨天時は。  
 ⇒少雨であれば実施する。
- 12月に地元店舗が閉店した。月に2回開催だが、交流であればその程度でよいと思うが、お店ということであれば、せめて週1回くらいはやっていかないと住民の方はどうなのかなという気がする。その辺りは将来的に増やしていくという考えはお持ちか。

⇒考えている。予算上は月2回の24回だが30回で計上している。毎週木曜日としているので、間の平日にするのか土日に入れるのか、試行だが様子を見ながら入れていきたい。コミセンで、イベントがその日程と違う時にあれば、それに合わせようかと。コミセンと相談しながら、増やしていきたい。

●若い人たちの出店を歓迎して増やしていきたい、という意向があるようだが。その手ごたえや見込みは。

⇒あまりないが、学校のつながりで声をかけたり、手芸店の方など、ネットワークがあるので声かけしたりしている。

●出店登録者数は。

⇒15から16件程度。20程度には増やしたい。実際には半分くらいしか来ない。鐘崎でやっているのでも魚は多いが、野菜が少ない。道の駅ではよく売れるので、こちらのために月2回のために用意するのは難しい。道の駅は、行けない人には厳しい。

●これからの展望は。現在は買い物弱者対策と地域の交流の場の創出ということだが。人まちの事業を離れて、自立しなければならない。そういう展望を持つての1年目2年目ということになっているのか。

⇒今考えているのは、鐘崎の街の中に常設の店を置くのはやっていけないだろう。個人で移動販売車を用意できないかと思っている。移動販売車とマルシェを存続させるために、他地域での買い物支援を移動販売車でしつつ、鐘崎でも店を置くことができるような形をしていきたい。売れ残りは許されないのでギリギリで仕入れる。そのため売れ行きが良いと品薄感が出てくる。保管できる施設も必要。

●買い物弱者という言葉の問題。やや上から目線を感じるので、別の言い方を考えた方が良いのではないか。

⇒行政への申請用に使っているだけで、会話では使っていない。買い物サポートとか支援と言っている。

## 2、介護と福祉の相談 笑顔「介護と福祉の相談や支援」

### 市関連部署；地域包括支援センター

団体から、提案内容について説明。

●専門家がアドバイスするということだが、今ひとつ分からないが、来られる方は、現在の介護に該当しない程度の方なのか。それとも現在の市と話をしても話が通じないという方なのか。もし後者であれば、もう少し市と話をしながら、団体がやっているようなサービスが市も必要ですよと言った方が、より良い形の介護ができると思う。具体的にはどのような状況か。

⇒もちろん市に行かれてくださいということで、行けば記録が残るので、いざという時は笑顔に相談に来てもすぐに市につなげることができるから、市の包括支援センターに行ってくださいということをお願いしている。介護保険の申請も介護保険証も持っているが、家族間の依存、家族で助け合うのが当たり前という風潮はある。

●80歳以上であれば担当の民生委員が居ると思う。包括支援センターにも色々な職種のス

スタッフがいる。去年の相談件数は多くはないが、関連の機関とのつなぎ方、包括にはつないでいるということだが、地域の民生委員などはどうか。その辺の連携は去年どうしていたのか、その課題があればどのようなもので、今年はどうされようと思っているのか。もう一点は、5月16日に第1回をされているが、その時の参加人数を教えてください。

⇒現在実施している地区の民生委員とは連絡をとっている。民生委員の会議の時に用紙を渡してお願いしたりしている。困ったら相談に行くように言っている。しかし、どうしても動かないからこちらに来られる。ケアマネにも付き合いがあるので大きなことにはしたくないが、内々にちょっと相談して、という方たちが結構来られる。先日の参加者は3人。定員が3人までとしている。

●事業の成果について、大変人数が少ないが、今後広く活動していくにはスタッフの数というものが問題になってくると思う。見込みとか、今後どのような動きをされようとしているのか。今回は、チラシを多く広めようと思いはあるようだが、それに対応できるのか。

⇒今年からは2人体制で、予約制にしたので。本当は3人体制で、当日来られた方の相談も受けたいが、2人体制にしてはどうかと言われたので、なるべく2人体制にしようかと思っている。

●現在は、スタッフは5人いるということか。

●チラシについて、この団体がまだまだ認知度が低い。どのような団体なのかと聞かれることはないか。

⇒まずスタッフについて聞かれる。ボランティアということでもどこまで話して良いのかと聞かれる。なんでも相談してほしいと言っている。保健師も精神保健福祉士、社会福祉士もいる。トータル的に答えられるようにしているように、メンバーを揃えている。今まで、タウンプレスに載せていただいたり、支援していただいたりしている。今後も何らかの形で役に立ちたい。市とどのようにしたらつながっていけるのか。メンバーは少ないが社会貢献させてほしいと考えている。

●専門的な知識をお持ちで、それを活かしていくにしては、相談される方々は個人的な話をされている。

⇒答える内容は専門的なもの。制度から金銭管理など。聞くことは身近だが、内容は専門的。

●そのようなニーズを把握し、行政に伝える必要があるのではないか。

⇒制度も変化し、分かっているようで分かっていない場合もある。戸惑いが多い。同じ目線で話をするので、様々な意見をいただいている。

●制度の改正などが行われて高齢者は困っている方も多いと思うが、担当課としての対応を参考までに聞かせてほしい。

⇒人事異動もあり、この団体とは初めてお会いする。介護保険制度について、一部を市町村が実施するようになっている。その制度設計を今行っているところ。はっきりしたところで周知するという体制をとっている。我々としても、今後地域の社会資源ということで、このような活動をしている、特にコミュニティにもヒアリングして地域の資源を掘り起こしていくことに取り組みたい。市との連携は、この団体は今のところ把握していない。ど

のような団体かを知るという視点で、今回参加している。

●相談の人数について、昨年度は相談者がいなかった時もあるようで、今は赤間コミュニティでチラシ配布の協力をいただいたということだが、それ以外に相談者を増やす、タイミング的には相談したいという方はいると思うが、それを相談に結び付けるような方策は、何か考えているか。去年と違うこと、こういうことに取り組みたいということなど。

⇒4月が2人、5月が3人で、確実に来ていただいている。コミュニティの協力が大きいと感じている。各コミュニティに相談してみたいが、どこから話を持っていけばよいのかわからない。先の動き方がわからない。ただ配ってくださいでは難しいと思う。

●大牟田の視察旅費が計上されているが、内容は。

⇒スタッフの一人が大牟田から来ているので、その旅費。今度宗像市のスタッフで精神保健福祉士が確保できた。

●自己資金に会費と寄付とあるが、その説明を。

⇒自己資金の部分は、スタッフの手出しになる。

●福祉セミナーの書籍は、何冊か。

⇒1冊。3カ月に1回発行される。情報源となる。

### 3、メイクハッピー&ピース「学習サポート」

#### 市関連部署；発達支援センター

団体から、提案内容について説明。

●発達障害に関して専門的な知識を持っている方は何人か。

⇒現在行っているメンバーに発達障害の子どもの保護者などが居るが、専門のスタッフがいるということではない。教育大学の関係者などの支援を受けている。

●スタッフ料について、報償費ではなく費用弁償や交通費ではないか。

⇒交通費と捉えている。

◇学生ボランティアの寺子屋事業などではボランティア料的なものが出ていて、交通費程度の額を報償費として支給するとなっている。交通費として出る場合は、交通費として算出している。報償費の規程として、講演等の場合は、近隣の場合は交通費は出ない。ボランティアスタッフ等については、通常どちらかの支出をしている。

●交通費としての支出が妥当ではないか。

●現行の要項に則っているのか。今後の検討、整理が必要か。

●参加者はどのようにして募集しているのか。エリアはどの辺まで。それと使用料について、会場として使われている場所はどこか。

⇒広報の方向は、このチラシを作らせていただいて、メイトムなど公共施設においていたり、ホームページに掲載いただいている。各青少年育成関係の関係団体からの口コミであったり、発達障害の親の会からの紹介であったり、という形をとっている。ポスターも作っているが、マンツーマンでの対応が必要なので、サポートするスタッフが長期にわたって同じ方が見ることによって、その状況を見て関係性を作っていけると考えているので、長期に関われる学生が何十人もと、場所に関しても同じ場所で何十人も受け入れる

こともできないので、少しずつ増やしながら掘り起こしているというところ。活動の範囲に関しては、宗像全域で、保護者の送迎を基本としているので、1人で来るとなると問題なので、全域から親御さんに送迎してもらうということ。会場については、パンフレット裏面にも書いているが、民家を借りている。その家賃を計上している。計5部屋使えるようになっている。そのため、同時に5人受入れられる。昨年度はもう一軒借りていたが、2か所となると難しかったり、送迎の駐車場が足りないということもあり、1か所に集約した。

●これからの話で、今後は色々考えているが、その中の一つに市民サービス協働化提案制度による継続を考えているとあるが。

⇒申請時点ではこのように考えていたが、協働委託になると行政側の考えなどもあるので、それが可能ということになればそうさせていただきたい。今ではそういった項目も挙がっていないので難しいということであれば、他の助成制度なども活用していきたいし、補助や助成も難しいということであれば、利用者負担をお願いせざるを得ないかと思う。今年度中に利用いただいている方に関しては、その旨のお話をさせていただきながら、実際にどの程度負担いただけるかを伺いながら継続してやっていけるかを考えていきたい。開催日数が、昨年度は236日、月に20日以上なので、一昨年からも増えている。

●担当課と検討を重ねると記載されているが、何か話をしたか。

⇒協働化ができるかどうかということ相談させていただいている。

●担当課の考え方を聞かせていただきたい。

⇒事業の内容としては、発達障害のサポート内容としては非常に良いものと考えている。支援者の福教大の学生にお手伝いいただき、個別にサポートいただいているので、これから社会に出ていく学生の支援としても貢献している。両輪で良い事業内容になっていると感じる。ただ、専門スタッフが居ないので、そこが協働事業につなげていくためには、その課題とかを整理することと、他のNPO法人の事業であったり民間事業であったり、そういった所との兼ね合いも考えながら、検討していきたいと考えている。

●講師謝金が計上されているが、その講師はどんな方を。

⇒昨年は九大の心理学の先生に、子どもたちにどうやって接していくかを研修いただいた。

●スタッフ研修という事か。

#### 4、シャイニングハートむなかた「がん検診の普及啓発、受診率向上」

団体から、提案内容について説明。

●今年度は大学生のスタッフを考えているということだが、どういう風に呼びかけていくか。それと、勉強会は、昨年度は6回で今年度は1回だけか。

⇒毎月、打合せも兼ねて行っている。大学生については、まだ予定だが連携をとれるようにやっていきたい。日赤を考えている。小さい子どものからの教育も大切なので、そちらも考えていきたい。

●そのことについて、教育委員会に打診などしたか。

⇒まだしていない。小さいときからの生活習慣の積み重ねなので。県自体の受診率も低い。

最終的には生き方の問題だが、若い時に雇ったときに、あの時に受診しておけばよかったとならないように。少しでも、受診することで救われる命を、微力だが市と協力してやっていきたい。

●チラシ作製が計上されているが、それはがん検診を啓発する内容なのか、健康セミナーの内容も兼ねているのか。

⇒昨年と同様のものを考えている。手に取っていただければ説明を聞いていただける。受け取られない方も居るが。市の広報にも掲載いただきたい。チラシを配る地域以外の方にも情報を伝えたい。

●人まち採択事業は掲載されていると思うが。

◇タウンページの掲載は可能。説明会の時に説明している。

～ 休 憩 ～

## 5、赤間サポート隊「コミュニティサポート事業」

### 市関連部署；コミュニティ協働推進課

団体から、提案内容について説明

●この団体の趣旨としてコミセンの肩代わりをするということだったが、コミセンの肩代わりではなく、コミセンの中でやっていくということは考えられないのか。別に二つ頭を作るのか、今コミセンが大変という事であれば、コミセンと話をしながら人的なものとか何とかで一元化した方が効率的ではないかと思うが。

⇒平成 23 年度から赤間コミュニティでも運用の試みがなされた。実際には部会員と事務員だけの人間的なつながりしか生じず、事務員の異動と同時に関係が解消され、継続が困難だった。その結果を踏まえ、継続して組織的にサポート隊を運用していくには、離れた視点でやっていくしかないかと思う。

●赤間コミセンのやり方が、事業の継続性がないからサポート隊でそれを補完するというとか。

⇒協議会はその事業で手一杯になる。手伝っていただこうと思ってもきちんと伝えることができなくなってしまう。別組織にすることによって。

●要するに赤間の活性化をやっていこうということで、やり方としてどういうやり方があるか。組織として2つ作った方が良いのか、1つ現在正式にある分をどういう風に強化していったら良いものになるのか。そういったことを、こっちは人間がどんどん変わるから、だから新たに作りますよと、新たに作ったところは人間は変わらないということ。

⇒自治会役員は、ほとんど1年から2年任期。そこから選任されて来られるのがコミュニティの役員あるいは部会員となるが、1年2年でコミュニティ側はどんどん入れ替わる。新陳代謝があるという良い面はあるが、志というか、その継続性が難しい。コミュニティという枠の外側に組織化をして、コミュニティ組織を良くするというよりも地域を良くしたい。そういう想いの人たちを募って、地域活動をコミュニティと一緒にやっていきたい。

●コミュニティの中に、地区の推薦で1年で変わる人と、そうでないボランティアの人を置くということはできないのか。コミュニティの動きに一貫性がないと。

⇒コミュニティの活動は義務的な活動。実際に地域に居る方は、自分たちでこの分野なら得意だよと、この分野ならできるよと。コミュニティの組織に入ってしまうと全体の活動をしていかなければならないので。活動する人はそうではないよと、自分の得意分野で関わってもらおうと。

●予算書の自己資金の内訳を。寄付金の確実性や目処も。

⇒主に協賛金や個人の浄財で賄うが、協議会からも多少はお願いしたい。もちろんコミュニティが自前で稼いだもので、まちづくり交付金ではない。

●割合としてはどの程度になるか。

⇒協賛金の集まり具合になろう。別のイベントで例年30から40万集めているので、それ位は何とかしたいという意気込みではある。

●イベントはそのためのもので、コミュニティのサポートとは違うが。

⇒協賛金を出してくれる人の気持ちは、赤間地区を良くしたい。そういうところなので、出所は一緒だと思う。

●需用費でコピー代や印刷代が、他の事業に比べて桁違いに多い。安価な印刷方法なども教示があったと思うが。もう少し安くなるような検討はしたか。

⇒色々な考え方があると思う。民間で利益追求するのであればネット等で安価なものを使う。こういう地域を良くしようという考えであれば、赤間地区の自治会で自治会だよりなどを出している所も多く、彼らもそういう考えでいけば安価な方法で作成すると思う。そういう人たちもコミセンに来てコミセンの単価で印刷している。それはコミセンの自主事業になって、それが各自治会が何かやる、あるいは全体で何かやる時の活動費になる。つまり地域の中でお金が回る。

●ただしこれは公金になる。公金を使うことになれば無駄な出費は抑えるということは必要ではないかと思う。

⇒物事には色々な見方があるし、矛盾していると思う。ある一面の見方をすれば正しい事であるが、前から見たり後ろから見たりすると、別のやり方が見えてくるのではないか。

●この審査の場の本来的な論議に立ち返ると、人づくりでまちづくり事業というのは、税金を使ってやっている訳なので、私たちはどの団体にも、こういう所はもう少しコストダウンに工夫ができないか。市の税金を使ってやる事業なので、ということは必ず尋ねるしお願いもする。基本的な筋はそうなる。なので、そこを踏まえて対応いただきたい。

⇒最適な方法でやるよう、団体にはお願いします。全体最適で。

●担当課に尋ねるが、赤馬館が営業しているが、その収支は。あれはコミセンがやっている。その事業がどのように展開しているか把握しているか。

●この事業に関連するか。

●一連の流れになってくる、地域活性化で。あれも活性化で、この案件も活性化で。次の団体もそうだが、赤間地区の活性化。もちろん金を使えば良い方向になっていく。その辺りが本当に現状としてどうなのか。一つの例として。

⇒昨年 11 月にオープンして、3 月までの来場者が 24,000 人。当初の目標が年間 50,000 人なので、このまま推移すれば、来場者という目標は達成する。収益でいうと、本来収益目的ではないが、物販の手数料収入で若干の収益が出ている。

●拠点というか事務局は、コミセンに置くのか。

⇒コミュニティの外を考えている。

●使用料の車両は、どのようなものと考えているか。何に使用するのか。

⇒サポート隊の事業で、会員が集まった時に休憩場所が必要になる。テントやイスが必要。その外自分たちが活動するために必要な資機材を運ばなければならない。

●回数が書いてあるが、いつもそれを念頭に置いているのか。

⇒念頭に置いているのは 9 月の事業と 2 月の事業。

●両方とも 5 台必要という事か。

⇒使う台数は同じで、運ぶ機材の量によって往復の回数が変わってくる。

●コミセンの車は使わないのか。

⇒コミセンの車は、コミセンの分で使うので、使わない。

●補助金終了後は、コミュニティビジネスにもと書いてあるが、このサポート隊の中で研究し勉強しということと思うが、どのようなことを考えているか。宗像全体の中でコミュニティビジネスをどうやっていくのかは先駆的かつ困難、非常に難しいことで簡単にいかない話だが、今ここまで話ができるということがあれば聞かせてほしい。

⇒酒粕まんじゅうというのがあるが、蔵開きの時に売り出されるが、そういったものをコミュニティがやるイベントに乗かって、この団体が販売できればと思っている。

●このコミュニティサポート事業というネーミングは、ある意味新鮮だったし、面白いことを考えるなと思った。コミュニティはたくさんの活動で充実した活動を展開している。更に強力な支援ができる。片や別働隊のような形になるということで、お尋ねしたいのは、コミュニティ運営協議会本体とこのサポート隊との役回りというか、地域での色んなことの担い方とか、そういう棲み分けといったところをどう考えているのか。

⇒地域から選出された人たちがコミュニティ活動を展開しているが、かなり義務的な活動で悲鳴を上げていることに直面している。今後、地域の発展、今はコミュニティ運営協議会を中心にやっているが、あまりそこに住民の負担を増やし過ぎると、継続が危惧される。中には自主的に地域貢献したい、社会的にがんばっていききたいという方が居る。そういう方々を多く集めて組織化して、できる限り住民の負担を減らしながらも、社会貢献したいという人たちを伸ばしていくことによって、社会的な活動を継続できるのではと思っている。

●行政としては、コミュニティのあり方で、現在のあり方は現在のあり方、今足りないものについては新たにサポート隊という発想でやっていくのか。現在のコミュニティのあり方がこういう風にあれだから、コミュニティのあり方を少し変えていこうと。全面的に変えようと問題が出てくるので。そういう風な発想は、どうなのか。

⇒当面は前者の方かと思う。



## 6、赤間宿にぎわし隊「よみがえれ！唐津海道赤間宿の街並み再生応援事業」

### 市関連部署；コミュニティ協働推進課

団体から、提案内容について説明。

- 今の時点で、空き店舗は何軒くらいあるか。

⇒情報としては、十数店舗あるということ。

- それは、全てされる方があれば貸すということになっているか。

⇒そこまでは確認がとれていない。これから関わっていく中で、協議する。

- 赤間宿まつりがメインになるのか。

⇒赤間宿まつりに沢山の方がいらっしゃるので、その一角をコミュニティから分けてもらう。

今年度の赤間宿まつりが、まずはターゲットになると思う。その賑わいをそこに来店された方々が、こういう具合になるんだと見てもらって、その後はもう少し回数を増やして、例えば3、4カ月に1回くらい、あの通りを歩行者天国にして、そこに来店してもらい、ある程度繰り返すことで、あそこに店舗を構えれば商売になるなというような実感を持ってもらうのがいいのではないかと、いう想いでいる。いきなりあそこで商売になるというのは、無理があると思う。

- 問題は、赤間宿まつりの1回ではなくて、そのイベントを増やすことによって人の目を引き付けていくということなのだろうが、年に何回かイベントをやったからと言って、シャッター街がどの程度活性化するというのは、かなりのことがないと。

⇒時間はかかると思う。この団体だけではなくて、赤馬館とタイアップしたり、その外原町と一緒にやろうとしてる団体もあるので、それらと連携をとりながらやる必要があるかと。連携や主体的にはここは取れないと思うが、コミュニティと協力しながら一緒にやっていけば、店舗の埋まり具合も少しは早められるかなと期待している。

- 店舗を補てんするのはアレでしょうが、それ以外にイベントそのものはコミュニティをメインにしながら、コミュニティに助成し補完するという恰好でやっていく。先ほどのサポート隊はコミュニティとは別という形だったが、これはコミュニティがやる分について一緒にと言うかその中で。

⇒コミュニティも予算が限られているので、イベントは赤間宿一本しかできないと思う。

そういったところで補助金を使わせていただいて。

- 人を増やすことで知名度を上げていこうということか。

- 予算の自己資金、この中にはコミュニティからの寄付は入っていないのか。

⇒非常に苦しい所ではあるが、あちらこちらから資金を集めていかないと、中々立ちいかないのではないかと、思っている。

- 赤間コミセンでの自主財源は、どの程度あるか。

⇒400万円くらい。

- サポート隊とにぎわしたい、赤間宿まつりを巡ってのその棲み分けはどのように考えているか。

⇒赤間宿まつりの来場者を利用するだけで、メインは自営業者との交流。自営業者が入る

ためには、いきなり宗像を紹介しても結び付かない。どうやって自営業者との交流を、関係を深めていくかというところ、何かイベントとかそういうところでしか交流の仕様があまりない。そのために、どうやったら自営業者が来てくれるか。人が多い所に来てくれる、赤間宿まつりには多くの人が来る。その一角にマーケットコーナーを設置して、そこで自営業者を呼んで交流をしながら、最終的に自営業者が、商工観光課と一緒にがんばっていくことになるが、市の体制などを紹介しながら、できたら赤間宿の店舗を業者で運営できればと思っている。

●盛んに自営業者と言われるが、どのようなものをイメージしているのか。

⇒例えば手づくりの靴や家具、洋服など。理想とするのは、当時花嫁道具が赤間宿通りで全て集まったと聞いているので、将来的には、ここに来れば何かの全てが揃うような街並みができればと思う。

●構え口周辺にということか。

⇒それはイベントの話し。赤間宿まつりの時には、勝屋酒造がある上の方は賑わうが、下の方は、目的を達した人たちなので、中々下りて来られない。そこにアクセサリだとか日用雑貨だとか、魅力的なものを出店していただいて、来場者を下まで引っ張っていかうというもの。

●需用費のチラシについて、これは何の目的のチラシなのか。とても費用が高いが、何に使う予定なのか。

⇒出店される人たちの、ここにはこういうお店があります、そのお店の売り物はこういうものです、というような、ロケーションと出店内容をアピールするようなチラシになる。

●当日配布か。

⇒電車やバスで来られた方に配るものと、前もってコミセンなどで事前に広報しておけば、集客につながるのではないかなと思う。

●集客なのか。テナントの募集に使うのではないのか。

⇒いわゆるテナントの宣伝。

●根拠は、どのようにして出されているか。金額の根拠は。

⇒コピー代から積算。

●時代衣装について、かなり費用がかかる。ある意味遊びの部分になると思うが。どのようなイメージになるのか。何かモデルがあるのか。

⇒古い街並みのイベント事で、出店される方が着ている衣装、作業着に近いかもしれないが、飴売りだとか、そういった衣装を想定している。町娘や侍は、本来の時代衣装行列でやっており、とてもああいうものは借りられない。1着4、5千円程度と思う。

●継続して開催されると思うが、その度に衣装を借りるというのも。これは1回限りか。古着で簡単に作るという検討はなかったか。

⇒着物の維持管理も大変で、保管場所もないので、レンタルが一番かと。

●補助は3年だが、毎年この金額が計上されるということか。

あ、宗像ライフセービングクラブ「離島自然資源活用による交流活性化事業」

団体から、提案内容について説明。

- 事業の目的に実証事業とあるが、どのような内容を実証しているのかを教えてください。  
⇒海や山などの自然を子どもたちに伝えていくことと、スポーツ振興を目的にしている。  
キャンプでもマリンスポーツ体験はやっている。
- 実証とあるので、具体的に子どもたちがどう変わっていくのかを実証されるのかと、そのためのキャンプなのかな思ったので。  
⇒キャンプには保護者とは来ないので、自立心は、それぞれの子どもたちは持てたと考えている。キャンプの出番で、食事を作ったりテントを立てたり、最後にテントにみんなでペインティング。そういうので、子ども達自身の成長にもつながっている。
- 需用費の内訳は、何かあるのか。  
⇒前年度までの用具があって、テントが高価だが、そのテントの見積というか、それを見ながら作っているが、若干変更がある。輸入しているものなので、高くなる可能性もある。
- 毎年購入するのか。  
⇒消耗品なので、補助金が出なくなった時のためにも、高額なので、毎年買ったものは使っているが、揃えておいて。子どもたちの人数も増えているので。
- 今は、何張あるのか。  
⇒今は5張。大が2と小が3。
- 地島以外でティピを使うことは。  
⇒使っていない。告知で、マリンフェスタの際に展示した。
- 実証事業という言い方をするのか。  
⇒体験事業の方が良いかもしれない。
- 事前事後のアンケートも取られているが、子どもたちの体験活動は重要なので。
- 写真資料などがあれば良かった。  
⇒昨年度の様子の動画を、YouTube にアップしている。参加した子どもたちと島の子どもたち、そしてスタッフが一緒にやっている様子。ドラム缶風呂などの様子を動画にしている。
- キャンプは何泊か。  
⇒一泊。島に渡って、テントを立てて、食事の準備をして、マリンスポーツを体験。キャンプファイアーをしながらの交流。
- これまでの反省、振り返りを含めての新しいプログラムにチャレンジしてみようかと考えているのか。  
⇒色々考えていたつもりだったが、一泊のイベントなので、地島の子どもたちとの交流というか触れ合いというか、それが足りなかったのではないかと、という反省があった。そこで手遊び的な、音楽を使った、これは練習しないと円を組んでできない、それは成功したかなと思う。島内外の子どもの触れ合いができた。
- テントの収容人員は。  
⇒大と小、それと詰め具合で異なるが。
- トータルで。申請書にある33人でいっぱいなのか。

⇒もう少しいけそう。男子と女子で分けたりするので。

●予算を見ると、広報宣伝に係る経費が出ていないが。どういう活動でどのあたりにやっているのか。どういう人たちが参加しているのか。

⇒元気な島づくり課で、年3回程度チラシを作っている。市内回覧や公共施設に置いて、約1万部作成する。その中で、夏の事業の一環として掲載すると共に、ホームページなどでも支援している。団体自身のホームページなどでも知らせている。今年で3年目になるが、口コミでも広まってきているのではないかな。昨年も予想を上回る申し込みがあつてので、ティピを増やして、地島でキャンプによる交流ができれば、島の子どもたちと、活性化につながればと思う。

●地島にも大島にも熱心な団体、取組がある。同時に外から、例えば九州女子大、教育大、福祉団体など、島に行つて島おこしをやろう、子どもたちに色々な機会を提供しようとする団体が、内から外からある。そういう所とのネットワークを作してほしい。例えばキャンプをするときに、大学生との交流を図る。行政にも、コーディネートをお願いしたい。

⇒九州女子大は、メインは大島での活動だが、例えば地島の地引網の手伝いをボランティアで、といった方も居る。

●地域の方との交流で、大人もそこに泊まるとかあれば、今後増やしていく説明にもなるのではないかな。

## い、宗像アウトドアクラブ「大人の社会見学（島編）」

団体から、提案内容について説明

●見学というと、私の感覚では大島を見て回ったりとか知ってもらいたいとか、そういった企画は考えているのか。なぜコーヒーなのかがわからない。企画の意図を聞かせてほしい。

⇒プログラムは若干変えようかと思っているが、はっきり煮詰まっていない。備品は、買わなければ予算は使わない。コーヒーに関しては、プログラムが変わってしまったが、焙煎した後に山を少し歩いて、景色を見ながら焙煎したコーヒーをみんなで煎れようというイベントだったが。

●事業のメインとしては、御嶽山に登って自然の良さを体験してもらおうということか。

⇒他のものは、島の物を使って、スモークは2時間3時間と間が空くので、その間に島で釣りをしたりとかで島の魅力を伝えていこうかと。

●そちらをメインで企画書に挙げてもらった方が、島の魅力を伝えるという意味では良いのかと思った。ちなみに、去年の参加者数は。

⇒約50人。

●催行人数は20人なので、申請は20人で計上しているのか。

●15人の参加で材料費が10万円、燻製も10万円。それと15人がどういうアレなのか。おそらく継続。

⇒参加料は誤りで20人を考えている。

●しかし、去年は延べが50人で今度は60人。それでも材料費が高価では。

⇒昨年も指摘されたが。参加者は重複はしていない。同様の事業を受託事業で実施してい

る。その時に参加者も多くて、また行きたいという方も結構居たので、もっとやりましょうかという話しになった時に、補助金事業でということで、昨年から申請した。最初の頃から来ている人もいるかもしれないが、毎回新しい方がきていると思う。

●それでも、人数が少ないように思う。

⇒最初のダッチオーブン教室は、マリンスポーツ体験と合同でしたので、盛り上がった。

●ライフセービングクラブの方が参加しているのではないか。

⇒それはない。私は双方の関わりがあったが、全く別のスタッフが動かしている。人の集まり方としても、別のコミュニティになる。

●大人の社会見学ということなので、受益者負担というか、参加費等は妥当と思うか。最初のきっかけとして来てもらうには、これで妥当だったのか、原材料費、自分たちで作って自分たちで食べる分だったら、もう少し材料費として、来ていただく方に負担してもらっても。その辺は検討されたのか。子どもは分かるが。大人は、またリピーターとして来てもらうためには、この程度要するというのは、あるかなと思う。

⇒担当課としては、まず足を運んでもらう。大島の良さ地島の良さをまず知ってもらうということが前提にあり、金銭的な設定については、まず来てもらって又来たいと思ってもらうことが目標。

申請書にもあるように、全く島に関心のない方を呼びたいということがあって、嗜好に合わせたイベントとしてもらった。結果的に団体にも負担をかけてしまったところもある。募集ももっと効果的な方法を検討し、お越しいただいた方には新規で島に来ていただいた方もいらっしゃったので、是非新しい層を呼んでもらっていただきたい。市から団体にお願いしたのは、島の食材を使ってほしい、島の人を巻き込んでほしい。結果的に何が一番良いかというと、島の方々が経済的に喜ぶ、定住が増える。島の方との縁をつなぐことで島が活性化すればということが、市の本来の目的であるので、違う視点を島に持ち込んでもらったということは、今後も頑張っていたきたいと思っている。

大人の社会見学と言いながら、結構子どもも参加している。お父さんお母さんと一緒に子どもが来ている。

●予算書の支出の一番下に、旅費と役務費が別枠になっているのは。

⇒要項の改正に伴うもの。渡船費用と車両や荷物の運搬費は、100%補助に変えた。

●面白い島の魅力を見つけていただいているが、年間とおして島にはそういうものがあるという事業として、定着することは考えられるか。

⇒今年度は、七夕まつりでの企画もかんがえたが、うまくいかなかった。色々なアイデアを出していきながら、定番化を考えていきたい。

●残っていくような形を、島の人たちと考えてほしい。

●島の食材を、スモークやダッチオーブンという形で、その他どういう料理になるのかということ島の人たちと考えてもらいたい。島の人たちの自慢の種になると良い。

⇒昨年は、マリンスポーツ体験の時に、地元の方がバーベキューを手伝ってくれたりとかがあった。それを少しずつ、島の人たちにも関わっていただきたい。

## 7、宗像市消費者交流会「明るく楽しく学ぶ消費者講座」

### 市関連部署；消費生活センター

団体から、提案内容について説明

- 会員数が53人で、会費が2,000円だが、予算書ではどこに見られるのか。  
⇒予算書は、開設する講座の予算で、あとはハイキング、グラウンドゴルフ、ウォーキングなど、入っていない事業の分になる。
- 交流事業等に使っているということか。  
⇒会員同士の親睦などのイベントもやっている。
- 3年間で終了になるが。  
⇒市でも県でもよいが、どこかで続けていきたいと思っている。
- 補助金終了後は。  
⇒やっていく。どうしても講師の謝金がないので、それは工夫しないといけないが、毎月何かはやっていく。
- この3年間のその前は、資金調達はどのように。  
⇒会員の会費だけなので、ルックルック講座や、市職員などを講師にするなど。  
補助金をもらったおかげで充実した内容になった。なくなったら、そのところを切り詰めてということになる。継続はする予定。
- 2月に相談事例からとなっているが、高齢者については健康、体力測定。今一番大きな問題になっているのは、詐欺の関連。その辺りは、2月の分には入っているのか。  
⇒その予定。いつも新聞の切り抜きなどを持って、毎月のあいさつの中で事例を話している。
- ポスター、チラシ印刷が計上されているが、市の広報紙の活用は。  
⇒市の広報紙にも掲載している。ポスターを見て参加ということは少ないが。
- メンバーからの口コミが多いのか。  
⇒口コミが一番効果がある。2、3回来てもらって、効果があると思えば加入してもらう。
- 全体で、男性は何人。  
⇒6人。男性を歓迎する。
- 市も消費者講座を開催しているが、それとの関連は。  
⇒行政としては、全体が対象となる。年3回、テーマも重複する場合もあるが、日程やテーマも会と打ち合わせて、重複しないような形で考えるようにしている。
- 重要なテーマはどちらもされて、時期がずれた方が参加もしやすいだろう。  
⇒市は9、10、11月に実施。100人以上の申し込みがある。講師謝金にも限りがある。会長のつながりで講師派遣ができるのは、大きい。

## 8、がんばれ宗像！！「就職・転職・キャリアサポート事業」

### 市関連部署；子ども育成課

団体から、提案内容について説明

- 実施体制で、主要メンバーが 10 人、副メンバーが 10 人となっているが、会員数は 12 人となっている。メンバーと会員の違いは。

⇒まだ会員になっていない方も居る。色々な意味でサポートしてくれるメンバーが周辺に居るので、そういった意味でのメンバー。

- メンバーの方が講師か。

⇒自分が講師になるが、市外になるが、講師を呼ぶことも可能。

- 20 回のうちに、大部分は貴方がされて、場合によっては違う方が、ということか。

⇒セミナーによっては、他の者がした方が良いものがあれば。

- 小学校や幼稚園、保育園にはどうやって、今までどこか話をされたことがあるのか。どのように、小中学校であれば教育委員会との関連もあるだろうが、時期的に今年度の計画は、学校も PTA ももう作っていると思うが、そこに関わっていくかということ。

⇒教育委員会もそうだが、教育委員会だとその後中々、私自身が学校に直接アプローチするとか、動きが見えづらいというのもあるので、一度教育委員会に営業に行かせていただいたことがあったが、その時につながらなかった経緯があるので、実際は自分自身が子どもを育ててきた環境の中で、学校の先生方知っている方もいらっしゃるので、直接話を市に行った方が早いのかなと思っている。実際には小学校の PTA の、そういった専門家の話を聞くような機会の時に話をさせていただいたこともあるし、久留米の中学校では実際に就業体験の一環として、体験の前後で知識を深めるというところでセミナーをさせていただいたこともある。高校では、学生と保護者が体育館で一堂に会した時に、仕事や社会性についての話をさせていただいたこともある。大学では、基本的には学生支援がメイン。

- 今年は宗像で、直接小学校や中学校に提案をされるということか。

⇒PTA の色々な機会の、先生方をお呼びする企画が、結構ギリギリまで決まっていないということもあるので、こういったこともできるので良かったら使ってください、ということで、あいさつ的にいった方が早いのかなと思う。

- 実際に参加者を呼び込む時に、広報の仕方はどのように計画されているか。

⇒直接、例えば学校だったらチラシを配布させていただくのが一番良いかと思っている。

- チラシ 3,000 枚というのが計上されている。それが 2 回。その意味は。

⇒こちらで作って、学校に持っていく。

- 一度そこで登録というか、広報したら、次はそこに来た人に案内するということか。毎回広報かけるということか。

⇒毎回広報かけないと、中身が変わる可能性もあるし、配る学校ごとに内容が変わってくる可能性がある、その都度作るイメージではあるが、初年度ということもあるが、今後学校や時間のところを空けて同じものを使うという可能性もあるかもしれない。経験をつみながら考えていきたい。

- 呼びかけるときにキャリアサポートの話しをすると、もし準備があるならキャッチコピー的に、そのチラシのコピーはどのように考えているか。

⇒キャリアという言葉は、割と一般的にはなっているが、まだまだ何かというのは伝

えるのは難しい。言葉にしづらいところもあるので、子どもが社会で凜と生きていくための、子どもを育てるためのセミナーというか、そういうイメージで捉えていただけると良いのかなと思う。

●子育ては親育ち、というところか。

●自己資金について、会費はとっていないが。

⇒今後会費を取るかという所で、課題ではある。

●会費なしはペンディング。バザー収益金というのは、どのような。

⇒当団体で様々なイベントに参加しているので、例えばリサイクルの洋服とかを販売することで収益を上げていることもあるので、その収益でプラスしていきたいと考えている。

●担当課から何かあるか。

⇒家庭教育学級の関係で当課が出席している。この団体とは、初めてお会いする。学校は、カリキュラムがあり中々難しいと思うが、当市がキャリア教育、例えば中学2年生のわくわくワークがあるが、2年生だけが取り組むのではなくて小学生からずっとそれに関連するように、日の里西小学校であれば6年生が去年ミニキャリア、ミニわくわくワークということでやった。そういう部分で当市もキャリア教育を進めていこうということなので、企画の段階から入っていただいたりすると歯車が合うのではと思っている。学校も閉鎖的な部分があったりとかするので、一度教育委員会に行かれたということもあるが、そのつながりから少しずつ活動を広げていったら良いかと思った。

## 7、がんばれ！！宗像「親子で遊んで学べる防犯教室&清掃活動」

### 市関連部署；環境課

団体から、提案内容について説明

●会議室使用が6回となっているが、これは防犯教室でのものか、それ以外で活用するものか。

⇒防犯教室で使う。

●昨年度は3回か。

⇒実質開催する現状が難しいものがあったので。今年度は、最低でも月に1回くらいはやって、6回はこなしたいと思っている。

●そのための講師が6人分ということで計上されているのか。

●講師が1万円が6回ということだが、防犯関係の話しをされるのか。差支えなければ、どういう方を招くのか。

⇒1年目からお世話になっているのは、安心安全まちづくり協議会の会長、理事長。メディアなどでも取り上げられている防犯のスペシャリストで、宗像警察署とも一緒に連携しながら地域の安全というところで、住宅の安全性を無料で診断されている方、福岡県でも地域で活動されている元警察官などを呼ぶことも可能で、色々なセミナーの内容によって、及びする先生も変わってくると思う。

●いわゆる防犯の講習会に参加される方と清掃活動をやられている方、これはどういう関係、つながりはあるのか。



⇒つながりはあるケースもあるし、ないケースもある。例えば防犯教室で住宅に関することということになると、高齢者で、ちょっと最近近所で不審な人が居るので心配だとか、そういう住民の方が来るケースが多いが、清掃活動になると、告知がフェイスブックなので比較的若い方が多い。セミナーの内容がツイッターやラインの使い方になると、若いお母さんと子どもさんが来られるので、そういった方になると清掃活動にも合わせて来てくれるケースにもなる。一概に全く関係ないとは言えないが、連携できるようにはしたいと考えている。

●防犯教室を、せっかく良い先生を呼ばれていて、参加者が少しさみしいのが残念に思う。去年もチラシを配布しているが、それ以外にツイッターやフェイスブックなどにも紹介しているということだが、それ以外に参加者を増やす方法は、何か考えているか。

⇒去年はじめて SNS のセミナーをさせていただいてすごく反響があったが、どうしても日程が合わなくて、半分くらいの方が来られなかったということがあった。告知はコミセンや色々な所にチラシを置かせていただいたケースがあるが、今年は学校に配らせていただくかと考えている。特に SNS 関係だと中学生とか関心が高いと思うので、中学校のクラスにも全部置かせてもらったりとかするような形で募集した方が、反響があるのではないかと思う。場所もメイトムではなくて、一番近いコミセンでということなので、集客につなげていきたい。

●チラシの配布については、担当課とは、学校に配ることなど話はされたか。

⇒担当課と話をしたわけではないが、人まちの補助金をもらっているということでは、学校や機関に関しては協力していただけたという話しをうかがったので、教頭先生だと思うが、話をさせていただいて、という形になると思うが、事前にどこかの窓口と話をした方が良ければ、伺おうかと思っている。入口が良くわからない。

●見当とつけているコミュニティ、中核になるようなコミュニティ・センターは考えているのか。

⇒本当は全地区回りたいが、年内に全部は回数的に難しいので、各エリアまんべんなく 6 回まわりたいと思っている。

●まず、小学校中学校に行くということか。

●企画書の啓蒙活動という文言は、啓発活動に改めた方が良いと思う。

●参考までに、携帯の使い方などは PTA などに関心を持っていて、PTA 主催で講座を持っているし、市でもそういうことをされているので、情報交換してはどうか。

## 10、宗像カノコユリ研究会「市の花カノコユリの普及事業」

### 市関連部署；環境課

団体から、提案内容について説明。

●固有種とそれ以外は、一般の方は見分けがつくのか。

⇒誰が見ても、見分けはつかない。遺伝子的に調べたら、九大で調査研究し、長崎、鹿児島、四国そして宗像の 4 か所しか自生がない。

●固有種をやろうというのは、そういうこだわりというのか。

⇒地元を愛そうというか、先祖代々からあったものは広めた方が良くだろうと、それに絞ってやろうと。当初は、カノコユリを広めようとしていたが、昔からあったやつをした方が良くだろうと軌道修正した。球根から花まで5年かかる。あと3,4年すると花が咲くだろう。ホームページを立ち上げたので、情報は全部載せている。

●山にいくとかなりある。それとプランターに植えて、プランターに植えるについてはこうすることで日当たりとか、水はけとかいうあたりを注意されているということか。

⇒プランターは移動できるので、より適した場所に移すことができる。地植えの場合は、移動ができないので、ある程度良いだろうという所に絞って植えている。その所を会員に教えている。

●市の今の状況は。

⇒水と緑の会にも同様に取り組んでもらっている。正助ふるさと村にも委託している。この団体にも、育て方の講習をお願いして、市の花を広める、固有種を育てるという意味では、市としても応援していきたい。

●委託料のパンフレットの部数の根拠を。

⇒予算の許せる範囲内ということで、5,000部に設定している。大いにこしたことはない。

●取り組みに、一般市民向けパンフレット作成と挙げられているので、どういったところにどんな風に広報していくのか。

⇒基本的には、種まき講習を行うので、そこで配りたい。欲しいという方も多い。イベントをやった時にも、2,500人くらいは来られる。コミュニティ・センターに過去4年間訪問して、そこに来られた方や、それ以外にも関心のある方にも配り、市民に広げていきたい。

●講習会の参加者数は。

⇒4月に実施した時は、会員64人に案内して46人参加。

●参加者には、若い方は居るか。

⇒30代の方も居るが、高齢者が多い。男女は半々。

●人材は育っているか。

⇒役員のやっていけそうな人は、その方を中心に行っている。

●自然にある分をもっとみなさんにPRして、それが結果的に増やしていくということは考えているか。

⇒結果的に、それは人がすることだから、そういった意識を持った人をたくさん作れば、その人たちをつないでいきたい。誰かしませんかだけでは困る。最終的には、お寺やお宮に地域の人が育てたものを植えてほしい。そうしたら100年経っても200年経っても維持管理されて残る。個人のプランターは、関心がなくなったら絶える。市有地に保存園を作ってもらった。イノシシ対策も必要。各コミセンの事業でもやってもらいたい。

～ 休 憩 ～

## き、社会福祉法人さつき会「宗像大島の甘夏の加工品づくりと果樹園整地

団体から、提案内容について説明。

- 昨年度はジュースということだが、それ以前はどのような物を。

⇒ドレッシング、ピューレ、試作でカステラやお菓子など。

- 今年度は冷凍もの。

⇒冷凍物は宗像でも加工できるので、新たな商品に取り組んでいきたい。

- 講師が1日30,000円というのは、来て泊まり込むなど、結構時間が長いのか。

⇒朝から夕方まで、一日拘束になる。

- 原材料費で、その他の原材料70,000円は、どのようなものを考えているのか。

⇒加工品で使う調味料など。

- 今年度加工品ということで、特に冷凍もの、どういう展開を考えているのか。

⇒果汁を絞ってジュレに。冷凍したらシャーベットで出せたりとか。夏なので、みかんとアイスなど。

- 団体単独でするのか、メーカーやお菓子屋さんなどと提携して、玄海産のこういうものを取り込んだものですよと、そういう展開は考えているか。

⇒可能であればと考えている。最初の年にチョコレートショップなどもあるので。

- 量の確保のために大島だけでは足りないと、そこまでの拡大は考えていないか。

⇒島の事業なので。

- 正助ふるさと村の店で売っているのは、あれは正助の商品か。

⇒関わっている。

- 大島甘夏で、開発した品物は何があるか。

⇒ドレッシング、万能たれ、ジュース、ピューレ、焼き菓子など。

- 商品としてうまくいきそうというか、好調のうちにスタートしたのが、ジュースとドレッシング。

- 大島については甘夏限定か。海藻などの検討はないか。

⇒今は特にない。

- 5年で終了だが、簡単に総括を。

⇒3年目まではみかんの収穫だけ。状況が変わってきて管理という問題も出てきた。今は当施設だけで作業まで回っているので、管理までこれからも続けていきたいし、加工品づくり、食品は特化しているので、これから先も継続して事業は進めていきたい。宗像をPRできる力をつけていきたい。

漁師は後継者が居るが、農業は後継者不足。現在作業している場所も後継者が居ない。この団体がこの時期に人をたくさん連れていってくれていることは、大変喜ばれている。大島の活性化につながっていると考えている。

- 商品が増えて好評ということは喜ばしい。障がい者については、社会的支援というか、ともに生きるという姿勢で取り組まれている。農園整備について、高齢者に指導いただいて交流が生まれるなども、良い展開と思う。

⇒施設利用者のやりがいにつながっているようだ。

## く、公益社団法人宗像青年会議所「市民参加型ミュージカル むなかた三女神記」

団体から、提案内容について説明。

- 出演児童は、島内島外どれくらいの割合か。  
⇒ほとんど島外。毎年 30 人くらいに参加いただいている。昨年一昨年は島内からは 1 人。なかなか参加への一歩が踏み出せないようだ。ワークショップなどで交流は行っている。
- 練習はほとんど島外か。  
⇒本番近くなったら、1 回か 2 回は島内で行う。
- 大島物語となっているが、三女神の中の大島の方をメインにしたストーリーという事か。  
⇒毎年脚本は、大島の方が見て親近感が湧くようなものを、特に七夕伝説を盛り込んだりとか。
- 七夕伝説であれば、それをメインにすると大島になる。三女神にすると。  
⇒フィクションと捉えていただいて、あくまでも宗像市が世界遺産登録を目指している中で、子どもたちには三女神と世界遺産とかということではなくて、興味がわくような、中身はフィクションで、大島の方に親近感が湧くように工夫を凝らしている。
- 先ほどのワークショップについて、どのような中身だったのか。  
⇒台風で帰らないといけないということもあったので。8 月 7 日の朝、灯籠を設置した。これが終わったら、演出は大分の劇団の方で、前の広場でゲームであったり、ちょっと演じるであったり。夜須高原自然の家のキャンプでの依頼を受けており、大島の校長先生から子どもたちとのふれあいができないかとの相談もあり、去年はギリギリの船のタイミングで、エキストラという形で出演をしてもらおうと、今年もそれができなければ公演が終わった後は大島の子と子どもたちとのワークショップを、交流でしたいと。キャンプに出た子どもたちから夜須高原の子どもたちに大島のことを PR する機会になればと思う。
- 8 月のこの時期であれば、世界遺産は決着がついているのでは。  
⇒世界遺産登録がゴールではなく、自分の住んでいる所に誇りを持ってもらおうとやっている。どういう結果であろうと、しっかりとやっていきたい。
- 予算書の役務費は 0 円になっているが。  
⇒その他の経費で限度額を超過しているので。実際に車を運んだりすることはあろうが。
- 団体の自己資金、毎年この程度負担しているのか。  
⇒大島に限っては、この位は担保している。全体としてはもっとかかっているが。青少年育成には力を入れている。
- 中津宮に伝わるという太鼓の復活を考えているようだ。うまく取り込めたら。  
⇒ミュージカルに出演ということだと一歩踏み出せないが、そのような形での参加なら可能かもしれない。

## け、九州女子大学人間生活学科「大島のコミュニティ形成を生活を発展させる」

団体から、提案内容について説明。

- 事業が終わった段階で、大学としてどのように考えるか。  
⇒もう少し発展させたく、大島にニーズがあったら、大島ではなかなか得られない知識を

学校方提供するとか、交流だけで、学生が大島で習ってくるという感じだが、学生が学んだことを教えられる、子どもの居場所に少し入れたりしているが、物知りなお年寄りもいっぱいいらっしゃるし、我々が学んでいること、研究していることを入れるということがなかなかできないが、そういうことを意識調査も絡めながらと思っているが、そこまでは深くはやっていない。

- イベントに関わる活動を増やすのではなくて、調査とか研究とかも重点を移していく。  
⇒ 重点ではなくて、学生は学生で参加をして、イベントというのはすごく手間と人の手間と時間がかかるということを知ってほしいので、今元気な島づくり課と文化スポーツ課、子ども育成課から学生の手伝いをと依頼があり、それを掲示板に貼ると反応がある。その大島部分をずっと続けていきたいと思っている。交通費で2回は行けるが、食費や材料代などがかかると1回になってしまうが、補助金がなくなったから全然来なくなるということとは内容にしたい。

- 学内で事前に学習をして、それぞれの学生が事前に課題を持ってということだが、それをもう少し具体的に説明を。

⇒ 1年目から徐々に事業が増えて、例えば七夕まつりは大島の祭りなので、色々出店が出るので、大島の特産品を使って何か、こういう島ですよというアピールをしたいということで、パネルを作って行ったり、学生はみんなアカモクが大好きなので、1年目2年目3年目くらいまでは、お菓子を作りたいということで、クッキーやドーナッツを作って行ったり。夜のお祭りなのでお菓子はどうもということで、去年は餃子にした。これは大人にも好評で。そこにもレシピやラベルを付けて、本日中にお召し上がりくださいなど、食中毒とは何なのかという、本学の学びも入れながら、企画としては、自分たちはどういう切り口で売りたい、お店としてはそういう接客をするのか。そういうところを4年生を中心にチームを組んでやらせて、報告を条件、という形でやっている。交流も、外から来たものがやるので、どこからどういう者が来たかを伝えるのが大事だと思うので、そういうことを考えていくようにと言っている。社会人として考えてほしいという部分も伸ばしていきたい。

- 子どもの居場所づくり、昨年は具体的にどういう活動をされたのか。企画だけなのか、子どもたちに対してどういうことをされたのかを教えてください。

⇒ お手玉づくりをしたり、それを作って遊んだり。ところてん作りは向こうが企画したので、それのお手伝いをした。そうめん流しも。天候の状態で行けないこともあるが。中高の家庭科の教員を目指す学生が多いが、中高で何かをすることはできない。食育はどこでもできるので、幼稚園生、小学生、中学生の動きを見て学べることもあるし、高齢者とのパイプ役として大学生が居るのは、うれしいということ。

- 昨年度は、地島との関わりは。

⇒ なかった。一昨年はあったが。来てほしいという話しはあるが、大島の事務局長のように、一緒に話ができる人がいないので。地引網にも行ったが、名刺交換もうまくできなかった。

- 行き帰りを、漁師さんに送ってもらっては。

《 1 0 3 B 会議室分 》

1 1、Eg ブランダー「宗像市福祉事業所従事者ネットワーク」

市関連部署；福祉課

団体から、提案内容について説明

- 事業の概要・目的は昨年と同じだが、昨年の活動が間違いでなかったということか。

⇒目的はぶれるものではないと思っていたので。

- 要するに反省点・改善点はないのか。

⇒目的の 2 と 3 に関して、宗像である法人に所属している者が多くそういったネットワークのため、委員が参加している団体・法人に参加者に偏りがある。それを払しょくし特に 2 と 3 を達成するために、今年は多くの法人さんが参加し顔見知りになってもらえるようなイベントを計画している。

- 事業に対する参加人数や参加者の内訳は。様式 2 号の H26 年度のイベントについて。

⇒去年は定期学習会とイベントに分かれていた。8 月 20 日・9 月 12 日と 2 月 28・3 月 21 日。あとは定期学習会、6・7・8 月とシリーズで。半分以上は福祉従事者であとは家族の方。特にげんきっこくらぶほっぷという放課後等デイサービスを利用されているお母さん方、同業のゆり庵がやっているきつずクローバーを利用されている若いお母さん方の関心があり、交流ができた。人数は 10～20 人ほど。イベントはたくさん来てほしいため参加費がとれない部分があったが、野球は少年野球を合わせると 2 チームも来ていたので 100 人弱居たのではないか。最後の 21 日は芦屋の教育長さんをお呼びした勉強会。宗像の教育長さんを含め宗像の教育委員会の方中心で 20 名ほど。あとは福祉関係者、委員など。

- 予算に関して、スポーツ余暇イベントの講師謝礼とあるが、今年キャリアアップで考えている読書会の講師はお呼びするのか。

⇒講師は呼ばずに自分たちだけで。自分たちでできるくらいの力はメンバーについているだろうと思い、チャレンジしようと考えている。

- 同じく、予算書の支出の報償費について。スポーツ余暇イベントの①・②の講師謝礼に関して、野球とサッカーということで、①だとフューチャーズさんチームに①ということによるしいか。

⇒はい。

- フューチャーズさんは二年連続で全日本選手権で優勝されている強豪で有名な社会人チームだが、今回は支出基準に基づいて 1 万円ということで算出されたと思うが、参加摘要の基準に照らしてフューチャーズさんも 1 万円ということでご判断されたのか。

⇒はい。

1 2、田久有志の会「自治会再生モデルづくり事業」

市関連部署；コミュニティ協働推進課

団体から、提案内容について説明。

- 自治会再生会議事業には大変興味があるが、そのなかで、学生さんがフィールドワークす

るということで参加者は学生さんだけとなっているが、自治会の方の関わり方は。

⇒もちろん学生さんたちだけでなく、自治会に入っておられない方など、イベントごとなのでみんなに手伝ってもらいながら、手作りでやっている。オープンな感じ。

●企画の段階で学生が入っていると思うが、受け身ではなくどのような工夫をされているか。学生のアイデアが実践に活かされるような。

⇒資料の1が自治会再生会議事業となっているが、2～5までのイベントにまず来てもらって体験してもらいながら、今度はこんなイベントだろうと外部からの人の客観的な視点で会議を持とうというもの。

●基本的には2～5に参加した経験者の方になるか。

⇒そうだろうかと思う。ただ、参加しなくても型にはめずに自由に意見を言って若い方々の意見も取り入れていく。

●今田久自治会の加入率はどのくらいか。

⇒54.7 パーセント。

●若い学生のマンションもあるのか。

⇒あります。

●ゆくゆくは色んなイベントを通して自治会の良さを知ってもらい加入を促そうということだと思うが、コミュニティも自治会も色んな形で加入してほしいということも含めて、ぜひコミュニティも巻き込んで取り組んでほしい。

●学生の集め方の工夫は。

⇒田久に大学にお勤めの方がお住まいなので気持ちをお伝えしたところ、学生のためにも良いだろうということで、その方を通して大学にお願いしている。

●大学に正式にお願いしているのか。個人的になのか。

⇒大学に断りを入れて正式にお願いをしている。

●そうすると、予算書のところで学生に対する報酬と挙げているが、大学に組織として正式に依頼しているということであれば、大学も教育の一部として学生を参加させるということになると思うので、報酬という観点では少し違和感を感じる。これについてはどう考えているか。

⇒こちらもお願ひして来てもらっている。気持ち。交通費などの謝礼金という意味。

●大学によっては支払いを受ける場合と受けさせない場合がある。特定の大学ではなくいくつかの大学になるので、正式に大学を通してとなれば、各大学の手続き上可能であるかは確認をとる必要がある。仮に採択された場合、報酬ではなく交通費として支払う方が筋ではないかと個人的に考える。

●大学として学生に対して地域の団体さんにそういった支出して頂くということに関して、それを受け付けない大学もあると思うので、大学の手続き上の問題のないよう確認された方がいいと思う。

●田久で始まる事業ということで、自治会に加入している人も少ないということもあり、こういった活動をしていると田久の人に知らせる手立てはあるのか。

⇒田久であれば回覧板は必ず。今までも、これからも。

- 回覧板は自治会に入っている人だけになる。  
⇒それ以外には募集やお祭りのチラシを配ったり。
- 最後に、資料に「年配者」とあったがその定義は。  
⇒大体 75 歳以上。

### 1 3、MVC「夢の学びや」

#### 市関連部署；コミュニティ協働推進課

団体から、提案内容について説明

- スケジュールを見ると5月終わりだと学生さんに集まって頂いている状態だと思うが、これからされる食やふるさとのことなどの事業以外で、学生さん同士の会議はしているか  
⇒月に3回程度予定している。決まっている事業に関してや、それ以外に関しても意見を言い合う場を作る予定。
- 学生は、一年の途中から入ることは可能か  
⇒随時入会は認めている。大学生もゼミや実習でイベントによっては参加ができない学生もいるので。
- 関連して、去年の感じを見て、今年参加したり参加できなかったり、核になったりしそうな学生はどのくらいいるか。  
⇒去年は看護大生3人くらい核となる子がいるが、去年の反省で、当初立ち上げた時は盛り上がるが年の後半になると参加率が下がるのが課題。ボランティアのため強制はしにくい、行けば楽しい、行けば気づきがあると実感してもらえように気を付けていきたい。
- 東海大の名前はないが。  
⇒東海大の方にも声をかける。
- 美術関係の学生15人は、全体的にではなく、合宿と絵を描いてもらう時に中心に関わってもらうのか。  
⇒松下先生には関係のないイベントにも興味を持って参加してもらいたい、ゆめ未来アートの時は中心に関わってもらうつもり。

### 1 4、吉武地区スポーツ振興協議会「吉武から世界へ、スポーツ文化を活かしたゆたかなまちづくりプロジェクト」

#### 市関連部署；コミュニティ協働推進課

団体から、提案内容について説明。

- 予算書の中で負担金が会費・寄付金となっているが、スポーツ振興協議会の中では会費は無しになっている。その会費とは別か。  
⇒はい。あくまでも競技に参加する人には参加費として払ってもらっている。スタッフとしてこれをイベントとみなし参加してくれる方の会費はないという意味。ウォーキング大会などに参加してくれる人に対しては参加費用として。会に入ったからといって会費はとっていない。
- 総合型地域スポーツクラブという言葉は聞かれたことがあるか。



⇒はい。

●今回、スポーツ振興協議会さんは、吉武地区で総合型地域スポーツクラブを目指すという考えはあるか。

⇒ありません。総合型というのはある特定の人にお金がいく、それを確保するために補助金をもらうというイメージ。市民活動団体は全員のボランティアでやっていく活動。

●提案書の事業の成果を受けた以降の事業の展開のところで、市民活動協働化提案制度を目指すと思ったが、具体的なイメージはあるか。

⇒今の制度になる前、二十数年前に「新立山を守る会」を立ち上げて市民のために二十数年間、商工観光課から委託料を頂いて活動した。そういったスポーツを通して市民に役立つようなものに関しては、市から事業があれば挑戦し、市だけでなくコミュニティが本来すべき市民サービスもスポーツに関することは地元でやっていくこと。

●ということは、今の段階では、今の市民活動協働化提案制度に基づいて細かく検討されているという形ではなく、イメージとして考えておられるのか。

⇒3年間の中で活動を見て頂いて、ここはスポーツ振興協議会でやって頂ければという要請がくれば。

●実施体制のところで、実行委員会は理事とは別にその都度地区の中から募集するのか。

⇒理事さんは理事さん。理事さんでも行事に参加したいという人もいるかもしれないし、理事さん以外は参加できない訳でもなく、その都度実行委員として入ってもらう。全てのことに関わりたいと思う方は事務局に。人材バンクなので色んな行事に目を向けて活用したいという方を広げていく。

●今実際に募集を呼びかけたものに関して、やりたいという方が多いか、まだこれからか、実感は。

⇒今の段階では、事務局サイドでやっている。コミュニティとの連携なので、コミュニティの中の部会さんたちなどに入ってもらく。コミュニティは人材もっているもので、そういったことをお願いしている。実行委員としてはグランドゴルフであればグローバルアリーナの職員さん、ウォーキングであれば正助ふるさとむらの職員さんにも入ってもらったりしている。

●予算書の中で設備費が大きい。コミュニティとの共有は。

⇒補助金が終わっても企画提案型は辞めてはいけないと思っている。続けていくためにはこういった設備が必要。コミュニティにあるものは連携なのでコミュニティから借りる。コミュニティもないから設備費として。

●スポーツ以外の人材バンクの広がり。

⇒「新立山を守る会」は人材バンク。PTA 会長さんがコミュニティに入り、新立山を守る会に入り、コミュニティ運営協議会が立ち上がった時にはそこから今の役員さんが選ばれた。「新立山を守る会」も高齢化したので次の世代の PTA 会長さんがスポーツ振興協議会の事務局に入るよう、そういった人材を駆使して地域の存続を目指していく。

～ 休 憩 ～

## 15、あおぞらくらぶ「あおぞらくらぶ」

市関連部署；子ども育成課

団体から、提案内容について説明

- 26年度の参加者13人の内訳は。  
⇒子どもと大人半々くらい。
- チラシを配っているのは赤間駅などその一帯があると思うが、参加者の地域は。  
⇒どのあたりというのは把握していない。
- 改善すべき点、具体的には。  
⇒初めての補助金で戸惑う部分もあり、領収書を一人が管理すべきところを複数人が管理して紛失してしまうこともあったので、当たり前のことだがしっかりしていくこと。事業が始まると回すことに必死で写真をとることを忘れてしまったため、写真係を決める。毎回の反省をスタッフ内で話し合う場を設けて文書に残していきたい。
- 参加した人に次はどうしてほしいかというアンケートをとることもやっていってみては。
- 場所を玄海自然の家を使う理由は。少し遠いが。  
⇒自然の中というのが一番の利点。駐車場も広く考えなくていい。何より場所代がタダというところ。
- 実施体制はスタッフが10名だが、そこにはお母さんなど、どのようになっているか。  
⇒自然体験に興味のあるお母さん達为中心で、教育大の学生も。
- スタッフの子ども以外の広がり。  
⇒スタッフ以外は、毎回同じだったりするので、もっと広げていきたい。知り合いの知り合いで、口コミが一番大きい。
- 担当課へ。終了後、赤間西地区の居場所づくりの連携事業などは考えていないか  
⇒非常にいい活動をしているので、コミュニティとの連携をお手伝いしていきたい。

## 16、玄海寺子屋にじいろの会「玄海寺子屋事業（にじいろ教室）」

市関連部署；子ども育成課

団体から、提案内容について説明。

- 子どもたちが3～6年生で30人くらいなのか。  
⇒6班おかれていて各班5名ないし6名なので30名くらい。
- 予算の支出の報償費で学生さん2,000円お支払している。岬は1,000円、他の団体さんも1,000円だが、どうしてか。  
⇒うちの場合は教育大から玄海コミュニティまでバス賃が1250円かかる。岬の場合はコミュニティが送り迎えをやっている。うちの場合はバスで来てもらう。前は1000円だったが赤字がでるので2000円にしている。
- コミセンの部屋を使ってやっている場合、コミセンは部屋代をもらっているか。  
⇒はい。
- これは市のお金をやったりとったりという感じ。  
⇒コミュニティという事業ではなくて団体の事業でということで、補助金をもらって、き

ちゃんと切り離れた事業にしてくれということが当初の人まちの補助の関係。補助金をもらわずにコミセンでしてくれということになる。

●減免対象にもあたらないのか。

⇒あたらない。一切コミセンの電話代やコピー代、使用料などは団体から。

●今後続けていくにあたって、助成が終わった後、お金の面ではどうしていくつもりか。

⇒市の方からも良い活動だと言われているので、市の方にも考えてもらいたい。子どもたちは卒業しても新たな人たちが次から次に入ってくる。3年で切るというのはどうかと思う。塾に行ってしまう。地域の方も寺子屋を通して小学校とのつながりも出来てくる。そういった関わりは大きい。学生の報償費が一番大変で、後はどうにかなる。

関連部署より。凄く良い事業をされているし、市長も寺子屋を進めていきたいというお考えをお持ちで、なんとかしていきたいと考えている。国の子育て支援新制度が始まり、放課後の子どもの過ごし方を国の方も地域で進めていくのを応援したいという動きがある。福岡教育事務所さんと打ち合わせをしながら、新しい補助金制度ができたのでこれを活用してなんとか出来ないか今内部で進めていて、そろそろ話をできる段階にしていきたい。人まち補助金が終わった後も助成ができないか担当部署として考えている。

## 17、ふれあい自遊塾の会「ふれあい自然塾事業」

### 市関連部署；コミュニティ協働推進課

団体から、提案内容について説明。

●昨年度コミュニティの方から子どもたちのサポートに協力頂ける方を募集して集まったみなさんか

⇒昨年度11月に協議会の方から学習支援と遊びの支援ということで十何名か集まった。

●今年8月から集められるにあたって、参加しようとしているお子さんの保護者に対する説明会はするののか。

⇒今回書いている補助金の件もあるので、今からやろうとしている。南小の校長先生にこういうことをやろうとしているとお話をしたところ、時間等については土曜日は学校行事ともバッティングしたりするため放課後がいいのではないかと。子どもさんが本当に集まってくれるのかという心配はある。南小はどうしてもコミセンが自由ヶ丘小学校の方にあるため。実際には両小学校を対象にやっていきたい。

●子どもさんを集める経験上からすると、まず子どもさんの対象が低学年にあてはまるだろうと。それから段々成長して高学年までつながればいいだろうと書いてあるが、低学年を集めるとなると保護者の意向が一番大きい。子たちは保護者と一緒に来るため、保護者にこちらの意向をしっかりと説明して集まってもらうのがいい。

●団体さんの概要のところ、会員数10人（メインスタッフ15人）とあるが、また一方で、申請書の実施体制のところ、会員5名、地域有志10人とあるが、このあたりの整合性は。

⇒地域有志の10人は募集をかけて締め切った時点で、その後今声をかけて15人近くにはなっている。実際の協力者は。これからも増やしていきたい。

●豊富な経験をお持ちの方でも、子どもたちに接する時に、例えば簡単な問題が出来ない子に対してや、遊びで簡単なことが出来ない子に対してなど、こういうことに気をつけないといけないなどのスタッフに対する研修はどのようにお考えか。

⇒指摘を受けると考えていないが、学習については現役の小学校の先生もいらっしゃる。今回は自由学習にしており、宿題やら尋ねられたら教えると。遊ぶ方については、現在でも協議会の青少年育成部会の行事やら色んな自由の森でも子どもさんに対してやっている、その経験を活かして進めていきたい。

外遊びに関しては子どもたちの安心・安全が第一。その辺の注意は怠りないように。学習に関しては専門の先生ではないので、はっきり言って教えることはできない。先生に確認しても昔の教え方と今の教え方が違う。専門家ではないので、学習に関しては尋ねられたら答えるという感じにしている。

●子どもたちに接する接し方は共通してこういう認識はもっていなければならないというのは多分あると思うので、その辺りは教育大の先生からアドバイスを頂くなどされたら良いと思った。

●ひとつは、自由ヶ丘地区から南一区まで校区を越えてくるということは、学校の方でも校区外に行くときは親と一緒にという形になっているので、まずそこを確認とること。同じ南地区でも住居が離れているので自転車で行くことがもしかしたら出てくるかもしれない。その辺はどのようにお考えか。もうひとつは、土曜日は今学校で土曜授業があるということで外されているということだったが、子ども会など他どの連携は考えているか。

⇒校区外になるというのは今議論した。一箇所になるとどうしても一方は校区外になる。他の協議会の行事でも保護者と一緒に参加という風にされているため、これまでと一緒にかなという認識はある。あと協力は PTA やら子ども会。今後 PR も含めて協力をお願いしたい。

あと自転車の件は、原則としては校区外の自転車は駄目なんだと考えているが、保護者の方や学校側と打ち合わせしながら考えていきたい。

●参加者への保険はどうお考えか。

⇒基本は自己責任にしているが、市の総合保障制度でサポートしていこうとしている。先ほどの自転車の件で一番問題なのは、南地区の子どもたちに青葉台はちょっと遠い。外から来る子どもたちに対して親御さんときちんと話して、送り迎えを実施してもらおうかなと考えている。

## 19、まつりのぼせもんたい「まつりを支えるボランティアの育成」

市関連部署；商工観光課

団体から、提案内容について説明。

●予算に、のぼり 3000 円×30 本とあるが、こののぼりとはどういうものか。

⇒まつり支援隊のもの。

●大道芸ではなく。

⇒色んな祭りのもの。

●実施内容や実施スケジュールのところで、週一回芸人の育成、これはイメージがしやすいが、週一回のボランティアスタッフの育成は、祭りを支えるボランティアスタッフとあるが、ボランティアスタッフとは具体的にどういうものか。育成の中身は。

⇒ボランティアスタッフは、例えば大道芸であれば活動の中に入れて頂いて一緒に活動をして、手助けする形。私どもは勝手に支援する団体でしているので、要らんとおっしゃれば出来ないが、初めから関わっていいよと言われたら関わるというやり方をやっていこうかと考えている。例えば司会をしたり。当然みんな芸人なので司会とかも全部出来るので、そういう支援など。

●となればボランティアスタッフの方も、言ってみれば芸人さんがボランティアとして関わっていくということか。司会をすれば。

⇒そういうことではない。出来るならそういうも活用できるかなという意味合い。

●ボランティアスタッフの育成の方法は。

⇒例えば赤間宿や唐津街道など、ボランティアのガイドさんの育成など。事前に視察するなど、色んな祭りに合わせて事前に準備して活躍できるように。もうひとつは、田久地区の福祉会に老人クラブとかがあり、例えば芸人さん呼んだらいくらかかるかとよく言われるが、7万くらいかかる。そんなお金とても出せんと言われる。だからせめて交通費 5000 でも行きますよという団体を支援する。本当だったら一回呼ぶのに7~10 万かかる。だから、そういうスタッフを育成できたらと考えている。お金のかからない祭りに。関わっている芸人さんが何人かいらっしゃってもボランティアに行く時は無償で。

その団体の中でボランティアをしながら芸人になろうとする人が、段々面白くなってじゃあ本気になってみようかとなり始めたのが、補助金もらって10 年後くらい。例えば勉強が好かない中学生3 年生2 人預けて、なんとか芸人にしようかと今一生懸命やっている。今流行の中国の変面の練習。変面の稽古をするときだけちょっといい顔をする。そういうことが出来たら20 何年前に宗像市から受けた補助金が今やっと本当の恩返しができていくような感じが今している。ボランティアをやりながら、芸人が技術を少しずつ教えていく。そういうことになれば宗像から全国に発信できるようなものが出来そうな気がしてお話した。来年20 年なので。中学校くらいからボランティアでお祭りの経験をさせる。一人でもいいから面白い、将来お祭りを支えられるような人間になりたいなと思ってくれる人が出来たらいいなと思ったのが、そもそもの始まり。

●10 年かかったとなれば、これから考えると10 年後。長い時間になるが。

⇒いえ、そこは僕の場合は地盤がなかったが、今は僕が関わったイベントにはどこにでも連れて行けるので、そんなにかからないと思う。

●ボランティアの芸人の「発掘」、集めるという点では。

⇒今活動している団体や個人と協力したりとか、それと合わせて何とかやるとか。

●大道芸といえば曲芸というイメージがあるが。

⇒子どもに南京玉すだれを教えたいと言われているので、南郷の学童保育になんとか出来ないかアタックをかけている。子どもたちが南京釜すだれを初めから作ってから教えろと言われている。それから舞台に上がったら保護者の方も喜ばれるし、子どもたちも楽しん

でくれるのでは。それも無償で出来たら。今後吉武などにも声をかけていきたい。

宗像市にコミュニティが12箇所あると聞いたので、31日の夜には北海道に出て9月の3日には帰ってくるので、それが終わった時点から各コミュニティを回ってボランティアの方の募集と芸人に興味のある方を集めてもらって、僕のやっているショーを見せてビラを配って年内に募集したい。南京玉すだれは簡単だから一週間も練習すれば簡単に出来る。南京玉すだれ自分たちが使っているものは2万円するが、僕が考えたものだと手間をかければ材料費2000円で自分で出来る。こういうのを各コミュニティを回って募集をかける。

●週一回の芸人育成の方で、インストラクターの方が一ヶ月に5人来られる。

⇒今4団体だが5団体で考えている。

●ひとつの団体が週一回という意味か。

⇒今借り切って実際練習しているが、やはり指導する方がいらっしゃるので、謝金として月5000円位でいいかなと考えている。

●週一回というのは一団体が週一回ずつ。

⇒そういうこと。今は4団体しかないが。最終的には10くらいになれば。

●インストラクターの先生、5人の先生方はどの方が来られるのか。

⇒音楽の先生、踊りの先生、変面の先生と。今は三人。あとは僕の出来る範囲で教えている。大衆演劇など。

●市民4団体はプロの方ではないのか。

⇒生徒はこれから始める人。定年退職して夫婦で始める人など。これから集めていく。今言った踊りと音楽と、変面と僕の大道芸など、実際にやっているのは7～8人だが、これを今から増やしていく作業をしていく。

●既にこの4団体はある程度何人かいるのか。

⇒それは1人か2人程。

●支出のところで旅費の静岡4万円というのと、需用費のところが事務費5万円。これはポスター・チラシ・音楽CDテープというのが5万円なのかどうかを知りたい。

⇒旅費は、富山県の地元のコンクールがありこれをちょっと視察に行ったりできたらいいなという意味合いで。

●2万円というのは宿泊費も兼ねたということだが、自分も少し出すのか。

⇒それくらいあればいいかなと入れている。

●需用費については。事務費。

⇒ポスターやチラシは結構かかる。

●かかるのはよく分かるが5万円という根拠は。

⇒私もそのくらいかなということで書いた。

●分かりました。それでは詰めていくということ。

●原材費の作品で、小道具製作、さっき言った5団体のか。

⇒今のところ、例えば背景を描いたりとか、自分らで舞台の装具を作ったりとか、そういう意味合いのもの。

●それをお祭りとか言った時に使うということか。

⇒一回作っておけばずっと使える。

●発表の場で使う。

⇒そういうこと。

●担当課の意見を。

⇒担当課から、大道芸人の育成となると九州大道芸まつりを思い浮かべるが、現在市では、実行委員会の方に市の補助金を支出している。その経費は全て開催目的のために使用して頂いている。今回もこちらの団体さんも全く違うということだけ。色々精査しないといけないところはあるが、地域イベントを中心に大道芸人さんを育て、地域全体を盛り上げていきたいという動きは商工観光課としても大変ありがたい。

～ 休 憩 ～

### う、大島小学校 PTA「おおしまワク・ドキ子ども活動支援事業」

団体から、提案内容について説明。

●予算書のところで、文化祭の時の講師の方が 10 人ほど渡船代が入っているが、駐車代はどうかっているか。またダンスの方の駐車代はここに掲げてあるが、10 人の方が来られる駐車代は必要ではないのか。ダンスの先生に 10 回で 2 万の講師料か。

⇒はい。

●気の毒だと思った印象を受けての感想。文化祭の駐車代については。

⇒特に今のところは考えていなかった。今後補助金の中で限度額の範囲内で考えていければ。

●運動会ダンスというのは、例えば地域企画ではなく学校行事の中の運動会で子どもたちがダンスをする場合の指導ということか。

⇒はい。

●予算書のところで、収入の自己負担が 89000 円ということだが、これはどのような形の自己負担か。

⇒主なものが支出のところの食料費になる。OT キャンプに今年から行くようになるが、夕食代や朝食代として。これ以外にかかったものに関しては PTA の予算の中から補助が出来ればと考えている。

●予算書の需用費の中で、山笠や OT キャンプの消耗品で、500 円をそれぞれ人数で上げていると思うが、500 円というのは。

⇒山笠の飾りを作ったりするときの材料費として、おおざっぱだが 500 円位で考えている。

OT キャンプでは栗を作ったりなどにかかる消耗品費として、これもおおざっぱだが 500 円の人数分としてあげている。

●大島では子ども会活動をしているか。

⇒子ども会活動は特には。

### え、地島キャンパスの会「みんなの参加型・元気な地島づくり事業」

団体から、提案内容について説明

- 今年度で補助事業終了。今後ははどのような形をお考えか。

⇒そこは小学校の活動とか、子ども会、育成会で違った形でこのまま継続してやっていけたら。

## お、元気な地島づくり協議会「地島漁師食堂事業」

団体から、提案内容について説明。

- 食事は予約制か。

⇒はい。

- なごみの方は基本的にいつも開いているか。

⇒開いているというか不定休。なごみも予約制。漁師の仕事もあるので、時化たときは絶対に開けたり、電話をもらって提供する。

- 元気な島づくり課に新たな施設が出来ると言うことだったが、泊地区にか。

⇒泊地区に。

- そういう意味では、その施設を活用していくこと等も検討していくのか。

⇒なごみさんは白浜というもうひとつの地区にあり、泊地区には何もないため漁師食堂を実施している訳だが、今年度新しい施設が出来たら、貸館業務として調理室等もあるので、そこを活用して名物である地元のわかめを使った料理教室などをしていけば、漁師食堂の翌年度以降の地島の情報発信といったところで地元の方もしっかりとやる気をもってやっていけるのでは。

- そこでは営業的な行為のために使うのは、公共施設なのでできないということか。

⇒はい。

- 島の中に販売施設はあるか。

⇒現在地島にはおみやげや特産物を買えるところはない。なかなか食の発信は島の中では難しい。担い手がいないので、このように元気のある方が担い手となって島全体のレベルアップを牽引頂いている形。

- 魚は獲れるのか。

⇒今はヤリイカが始まったばかり。

- 漁師さんの数は減っているのか。

⇒減っているけど年齢があがっている。これから先のことを考えないといけないので、漁師もしつつ営業も。そういった意味で今立ち上げて協力して、魚も提供している。予約してもらった際には新鮮な魚を提供されるし、おみやげ物も自分たちの食堂の中でめかぶなどの販売もしている。たくさんは種類はないが、いずれはそういったものをしていきたい。とにかく分かってもらえるように。白浜ばかり頑張るのではなく泊の方も頑張ってもらって行く。食堂は今年まででも、活動して色んな方に来てもらいたい。

- 実際に、地島には6～7年前には民宿が数軒あったが、だいぶお客さんが来られないということでもどこも辞められてしまった。そういったことからこの事業が始まったのではないかと思う。



- 情報発信のところで、わかめなどを販売できないとあったが、ネットを使った販売は。  
⇒HP は開いてはいる。
- そういった発信はされている。  
⇒はい。
- それは行政はお手伝いされているか。  
⇒定年された方にお手伝いという形で来てもらったり、地島を盛り上げたいということで応援してもらって、HP が立ち上がって、私たちの品物を買って。
- 商工観光課も支援されているか。  
⇒していない。食堂、情報を発信するという行為は、一箇所だけを推す訳にはいけないので、天神などで出展があった時にはご協力頂いて、地島を目一杯 PR させて頂いている。
- 個人の支援になってしまうということか。  
⇒やっぱりどうしてもあそこだけになってしまう。広く宗像地区、いわゆる福岡の離島をアピールする際には出てきて頂いて。この間もテレビに出て頂いたりして。  
地島.com という HP を立ち上げた時、最初は商品を販売しようと考えたが、毎日自分たちが仕事しながら対応するのが難しく。電話だけの注文は受け入れている。ずっと誰かがついていたら多分大丈夫だと思うが。

#### か、大島を元気にする会「大島八十八ヶ所ルート周辺整備」

団体から、提案内容について説明。

- プレートはトヨタの方で材料は支給して頂いているのか。  
⇒車の廃材を利用して、アルミを使った車があるので、そのアルミで銘版を作って、お地蔵さんの名前や昔の番号も分からなくなってきたということで、それを取り付けたのがこのボランティアがあるきっかけとなっている。
- 形式的な点で、様式1の申請者さんの住所が違う。宗像市となっている。
- プレートは廃材ということで、杭はあれだが、他の材料費等はかからないのか。例えばプレートが壊れたときに次のプレート代みたいなのはよろしいということか。  
⇒プレートはアルミで作って完全に貼り付けているので、磨いてラッカーをかけていけば、かなりもつ。今回申請している杭というのは大島の方が作った案内板がある。その案内板が除草作業中切られたりなど、そういうときに交換用に杭を持って行ったりする。
- 八十八箇所以外の案内板は。勝手に持って行って。  
⇒大島オルレの関係で、これは世界遺産の審議対象になっているので、むやみやたらには付けられない。基本的にはコミュニティの方をお願いされた時だけ。  
除草作業は、三浦の洞窟ということまで行く道のりが岸壁の淵を歩いていく結構危険なところで、そこの草刈が結構大変だが、5年間継続して事業をして頂いている。その前は地元のコミュニティの関係者だけでやっていた。かなりボランティア的なところでご活躍頂いている。

～ 休 憩 ～

## 19、東海大五高・宗像高定期戦実行委員会「第3回ザ・マッチ・オブ東海大五高 VS 宗像高」市関連部署；文化スポーツ課

団体から、提案内容について説明。

- 少年の参加がものすごく多いようだが、野球チームに入っていない子どもも来たのか。  
⇒昨年については最初に予定していた日程が雨で流れたため、一般に広報するのが十分ではなかった。そのため少年野球チームに声かけて集まってもらった。ただ、一昨年度は当日にやったため、一般に普通に見に来られて、場所を貸していただいてやった。
- スポーツの幅を広げる予定は。東海大はサッカーも強いが。  
⇒野球に限らず。シーズンがずれたりするので、土日に開催となると全てのスポーツで対抗戦は難しい。校長判断になる。平日に組むとなればできるが、市民が来れなくなる。インターハイのシーズンは今。7月になればインターハイの試合は終わっているが、今度は野球の試合が始まる。スポーツは結構公式試合の時期がずれるので、難しい状況はある。少年を巻き込む時、従来はポスター・チラシを配って昨年みたいに全く少年野球団に所属していない子たちも、親も参加して頂いていた例もあるが、今年は日程が雨で流れて新たな日程の周知が十分出来なかった。その対策として今年度日程を組むにあたり、予備日みたいなのをはっきり決めておく必要があるのではと考えている。
- 東海大と宗像高は、現役の野球部員は何人いるのか。  
⇒新入生迎えて103人。対抗戦は秋で3年生は引退しているので、3分の2くらいになる。だから少年野球教室に関してはほぼマンツーマンになる。
- 余談だが、一昨年は宗像市の市政記念事業で宗像高でプロ野球のOB戦を、100万規模の予算を使って、少年野球教室をしたが、同じ少年野球教室を見に来られた体育協会の幹部の方は、こっちの方がはるかに効果があったと。10分の1以下の予算で。つまりプロ野球OBさんだったら3人くらい来てやるが、これは子どもたちはマンツーマンで対応できる。子どもたちは高校生のお兄ちゃんたちとキャッチボールしたり、保護者のおじちゃんが手伝ってくれたり。そういうことが子どもたちには効果があったと。

## 20、宗像市レクリエーション協会「よろこびひろげよう！レクリエーション人材育成事業」市関連部署；文化スポーツ課

団体から、提案内容について説明

- 介護士コースは、収入が30人となっているということは、一年間で30人くらいの応募があるということか。  
⇒15名定員を2クール。トータルで30人。
- 先進地の視察は県内を？  
⇒県内を予定している。県内だと市レベルだと福岡・北九も含めて、福岡市のレクリエーション協会が内容的にも充実しているので、どうかなと検討している。
- 宿泊は。  
⇒宿泊は講習会の一環で、受講生の皆さんを。GAを予定している。
- レクリエーション協会にいらっしゃる16人の方々は、レクリエーションインストラクター

の資格は持っているか。

⇒資格取得者は4～5名。ただ、私自身はキャンプディレクターの資格を、今回はレクリエーション介護士の資格もと。そういった様々な資格を持った者の寄り集まり。将来的にレクリエーション協会は、個人的な考えでは、宗像市の体育協会と対峙するような組織になっていたい。例えばフォークダンス。ニュースポーツ。インディアカなど。様々レクリエーションに関する種目・団体みたいなものをまとめる組織みたいに持っていきたいというのが最終的な望み。

●いろいろ資格を取られる方は、やっぱり地元で活動したいと思って一生懸命されると思うが、担当課にお尋ねだが、なかなかそういう方たちが地元のコミュニティや色んな介護施設などに本人たちが行くのは厳しいところもあるのでは。サポートは。協会も勿論自分たちでPR、28年とかもHPもされとかあるが、なかなかコミュニティの中に入っている活動は始めが一番難しい。つながりを作ってあげないとなかなか厳しいのでは。サポートなどは考えているか。

⇒レクリエーション協会と宗像市の文化スポーツ課は、うちの課が以前からこういったサポートをしており、市民サービス協働化提案制度では、レクリエーションの資格養成講座を市の協働委託でやってきた実績もある。その中で、それを本来の目的はコミュニティの方にそういった人材を育てたいとか、あるいはレクリエーション協会に所属してコミュニティや行政からの要請があればそちらに派遣するなどやってきており、まだそれが進んでいるかと言うと進んでいない現状があるが、今までの文化スポーツ課にコミュニティや一般の方からレクリエーションの指導をしてほしいという要請があればレクリエーション協会につないでいる。

●それは例えばコミュニティにそういった方々の名簿を見てもらう形になるのか。

⇒そこまではなっていないが、レクリエーション協会も休会していた時期があり、スポーツ推進委員会というところがニュースポーツの指導等今しっかりしている状況もある。ただレクリエーション協会のスタッフが増えて指導が出来るようになれば、小学校での親子レクの指導やニュースポーツなどできるようになるのではと。実際今、コミュニティの方は知っていると思うが、スポーツ推進員の一人はレクリエーション協会に所属していて、そこを通じてレクリエーション協会の方が行ったりしている。コミュニティの中では、その方を知っている方は多いと思う。

●レクリエーション協会が使えるというところを知らないところが結構多いのでは。コミュニティだけでなく自治会でもレクリエーションをやったりする。もっと前面にPRしていったほしい。

⇒事業計画書に書かせて頂いているが、次年度以降の事業の概要のところ、28年度中にアウトリーチ活動。この中で介護士さんに対してどう今後関わりをもっていくか、出張出前サービスをどう仕掛けていくか、その辺は市と連携させて頂きながら決めていきたい。

●予算書の中で単発の参加費とあるが、これは勉強のために。

⇒昨年までは協働化提案制度に乗った形でレクリエーションの指導者養成を前面に打ち出した講座を2年半に渡って実施してきたが、それはあくまで資格取得するための講座

で、今回はスポット的にも、何も資格取得にこだわらなくてもこの先生のこの講座を受けてみたいとか、そういった方もいらっしゃるのではないかと思います。単発の受講もOKということにしている。

●介護士は。

介護士は別個になる。それはみっちり二日間というのが前提になる。

●予算書の使用料・賃借料の支出のところ。会場使用料を宿泊研修料みたいなのにあてているが。その他の諸々の活動の会場費はどのようにお考えか。

⇒基本的にメイトム宗像をメイン会場と考えていて、減免の登録をしているので使用料は免除。グローバルアリーナの会場使用料だけあげさせてもらっている。

## 2 1、金海・むなかた親善の会「宗像市・金海市市民交流（草の根）事業」

### 市関連部署；秘書政策課

団体から、提案内容について説明

●吉武コミュニティとの関わりは具体的には。

⇒吉武のコミュニティで、最初の日はウェルカムパーティをして、吉武の地域の方たち、子どもたちや大人の方たちと一緒に食事をしながら。

●GAで？

⇒そうです、GAで。

●夕食会自体は吉武コミュニティでやるのか。バーベキュー。

⇒はい。それと二日目はいせきんぐのオープニングにどっぴりと行かせて頂いて。今世界遺産登録のあれで、遺跡のことなど色々あるので。そういうものを子どもたちに今宗像が目指しているもの、歴史的なものを知るうえでとてもいいかなと思います。またそれがちょうど真ん中でいい日にちだったのでそこで交流できるような形にした。最後の日はまだ吉武コミュニティでさよならパーティみたいな感じで、竹細工を作ったり、カレーを一緒に作って食べたり。

●竹細工は吉武のどなたかがしてくれるのか。

⇒はい。

●同じところで、一番最後の10月以降の次年度活動企画とあるが。

⇒確実なものはないが考えていく。これまで3年間の交流を経て向こうの子どもたちとこちらの子どもたちがつながった。来年度からもそういう形で交流をしたいと思っているが、3年の草の根交流はいったん終わりで、他の形にもっていかないといけない。他の形にもっていく術が、疎いところもあるので、市の方と相談しながら連携をもっともう少し確実なものにしていきたい。

●去年は行かれる時には5月25日には第二回の事前研修が終わっているが、今年も募集して事前研修をしているのか。

⇒募集は終わっている。大体の人数は決まっている。だが、事前研修は吉武との連携があるので、一緒に事前研修をしようということでそちらの都合も合わせてするように話している。

去年はこっちから海外に連れて行くため下準備に時間がかかったが、今回は迎える方でこっちで活動をするのでそれほど早くやらなくても。

●先ほど次年度以降の話があったが、例えば民間財団だったり国際交流に対する助成を行っているケースがあって、そういうのは大体秋くらいに締切があるのが多い。10月以降活動企画とあるが、使えそうなものがあるのかなのかという情報収集や、それを踏まえたアドバイスなどは担当課さんの方で実施して頂いた方が。割と早めの段階から。

⇒他に考えていることとしては、宗像と金海市との間にも青少年交流というものがあり、その中で関わって頂いたりなど。

●市長訪問はこっちはないのか。

⇒入れていくと行事が結構あって時間がとれない。いせきんぐのオープニングの時に会えるのでは。

●今までの3年間で通しの子が多いのか、今年度新たな子が多いのか。

⇒向こうからくるのは半々くらい。16人を予定しているが。こっちは7人が去年から、金海に行かれたので。新たに参加するのが吉武の12人。去年は11人だったが高校生になった方もいるのでその中から7人また参加して頂いて。

●向こうはホームステイか。

⇒宿泊施設。

## 2. 個別事業検討

(●; 審査員、◇; 事務局、※; 審査結果)

《103A会議室分》

### 1. 鐘崎マルシェ企画運営委員会

●終了後のことは、良く考えているようだが。

●月2回ということで、地元スーパーも閉店して状況も変わったので、増やすなどの方法をしないといけないのではないかな。

●昨年からは増やすということだったが。品物の調達も、地元から集めているので週1回は難しいのではないかな。昨年からは増やしているので、一歩前進とは思いますが。

●特記事項になるだろうか。この取り扱い。

◇実施にあたって考慮頂きたい事項ということで、団体には伝える。それについても、審査会としての見解となる。

●30回開催を考慮してほしい。

●昨年からは配慮しているので、あえて特記事項にする必要はないのではないかな。

●品物の安定的調達が難しいということなので、生産者との調整が必要か。団体代表者は、問題として鐘崎を何とかしなければ、という意識は持っている。補助終了後は、移動販売車など更にアップしていこうと考えているようなので、終了後のフォローアップをしっかりと、今年度はこれでゴーサインでよいのではないかな。

●今年度は、身の丈にあった内容ということで、これで良いのではないかな。

●あえて記載せずに、審査員の期待を込めて口頭で伝えてはどうか。

●プラスの面、評価する内容は記載しても良いのではないかな。

※付すべき条件なし、「地域にとっても有益な事業と認識している。終了後の展開に期待している」を特記事項として、採択とする。

## 2、介護と福祉の相談 笑顔

●昨年は参加が0という回もあった。交通費をかけて来てもらっても、相談が何もないというのはもったいない。専門的な知識もある方なので、そこは改善する必要がある。確実に相談者が。相談者が少ないというのは、チラシが分かりにくい。どういう相談をしてよいか分からないと思う。昨年の相談内容など、具体的な内容を盛り込んでどうか。改善する余地があると思う。信頼できる団体との表記も必要。介護保険制度も変わることから、相談したい人は多いのではないかなと思う。これは条件にしたい。

●市との連携が必要。行政には相談しにくい部分もあるので、困った人に対しての支援が必要。市とよく話をする必要があるのではないかな。

●包括支援センターは、団体のことを知らないし、報告を受けていないと言っていた。市や民生委員との連携は、もっと必要。

●専門家が多いようだ。来てもらおうと詳しく説明するが、来るまでに何なのか分からない。後の処理についても、団体に言わせると的確になっているということだろうが、それが一歩前に進めるような内容になっているのだろうか。

◇課題の一つが、参加者数が少ない。それにつながる広報や連携が必要ということか。参加者数の増などは条件として挙げられるが、関係機関との連携は、特記事項になろうか。

※「参加者数の増につなげるよう、分かりやすい広報、関係機関との連携をはかること。」を付すべき条件、「実施にあたっては、行政や民生委員等との連携に努めてほしい。」を特記事項として、採択とする。

## 3、メイクハッピー&ピース

●学習を支援するスタッフは居るが、事務局機能を担うスタッフが必要。

●公的な資格を持ったスタッフは居ないが、大学でその分野を学んでいる学生が中心になっているということ。

●専門性のあるスタッフの育成に努めてほしい。努力目標として。

●終了後の活動にも必要だろうから。

※付すべき条件なし、「専門知識を有したスタッフの育成に努めてほしい。」を特記事項として、採択とする。

## 4、シャイニングハートむなかた

●関係機関と同じような研修をするということなので、連携して実施してほしい。

●同様の団体はほかにもあるので、連携は必要。

※付すべき条件なし、「関連部署への相談、関係団体との連携を検討してほしい。」を特記事項として、採択とする。

## 5、赤間にぎわし隊

●付すべき条件として、印刷費の件が多く指摘されている。

◇印刷費の面と、活動面での記述が多いようだ。

●注意しなければならないのは、このような格好で地域の活性化をやるということになれば、どんどん増えてくる。サポートします、賑わいやります。その辺りを、ある程度地域についてはコミュニティ活動があるから、その分を核にしながらやった方が良いのか。それともコミュニティ活動に力を入れた方が良いのか。そういう所を検討しないと、どんどん、プロジェクトを作った方がどうなのかと、これは大きな新しい提案と認識している。

●サポート事業はあっても良いと思う。事務局が中心に企画していることと、印刷費のことを尋ねたときに、コミュニティの単価であればコミュニティの収入になるから良いのでは、という話で、かなりの金額。40 万円程度がコピー代で、それだけあれば他の活動ができそう。もったいない使い方。

●コミュニティの活動、活性化のためには、コミュニティに金を落とすのが必要という考えになっている。

●基は補助金、市民のお金なので、それをコミュニティで沢山使ってもらった方がコミュニティのお金になるというのは、コミュニティにはかなりの交付金が行っている訳なので。

●交付金が行っている分について、ある程度考えていかないと、そういうふうな形でどんどんお金を使うよという形になる。

●印刷代をこういう形で、高くてもコミュニティの収入になるのだから、ということは、補助金の使い方として認めるかどうか。

●好ましくはないが、コミュニティの活性化のためにはコミュニティに金を落とすのが、という言い分ではないのか。

●それは補助金の使い方としてはおかしいと思う。

●その分は、補助金から落としてもよいと思う。

●はっきり減額とした方が良いのだろうか。

◇予算にかかる部分なので、はっきり数値で示した方がよいと思う。

●事務局で予め示した基準もあるので。

●コピー代は致し方ないとしてもチラシについては事前に準備するものであろうから、この資料を添えて、その条件で揃えるべき。チラシについてはこの範囲で、ということで。

●半減を目途に検討すべきか。

◇半額にしても、補助金額は変わらない。

●印刷費でこの金額を認めることは、今後のことから認められないのではないかと。

●コミセンの予算が足りないから申請が出てきて、印刷費を増やさないとできないということになる。50 万を確保するために、ということになっているのではないかと。

●市民活動団体では、あり得ない金額。

●補助金の額は変わらないが、使い方として条件はつける必要がある。

●実績報告の際に、領収書の添付は求めているのか。このままだと、コピー代などもどんぶり勘定になる恐れもある。

●印刷はコピー機使用か。外注に出すのではないのか。

◇外注の場合は、委託料になる。

●このままだと、コミセンにお金が出ていくのではないのか。

●審査する側として、どのようなメッセージを出すか。需用費を削る。結果として出てくる金額は、それはそれで良いのではないのか。補助金額は満額になるとしても、伝えるべきは、市民活動団体の予算の作り方として好ましくないというメッセージは必要。

●予算を執行しなければ、自己資金が減ることか。

●コミュニティの活動を、別の団体がするようになっただけではという意見もあるが。

●経費面だけでなく、コミュニティ活動との一元化を考えるべき。別々に動くのではないと。

●赤間宿まつりの実行委員会などで協働でやる必要はあるだろうが、むしろこの企画提案は、コミュニティと別の市民団体が一緒に、より質の高いものを目指す。今まではコミュニティと別団体というのが多かったが、今回は、提案者もコミュニティの方で、コミュニティとの切り分けが分かりにくい。別の団体としての実態が必要。

●やることは、あくまでもコミセンの活動がメイン。

◇担当課としては、担い手の確保が必要。その一つのあり方としてのサポート隊。スタッフが重複しているので分かりにくい部分もあるが、別団体となることは確認しているとのこと。コミュニティを支える新しい形と考えているとのこと。

●あくまでもコミュニティ活動を支えるということか。コミュニティの制度疲労をおこした部分を、新たに制度を作るのではなく、その制度をバックアップする体制をとるということか。その体制は連携というか、一元化は図るべき。

●あまり一体化すると問題がある。棲み分けは必要。コミュニティとサポート隊は、一定の緊張感が必要。

●旅費についても予算額が多い。1人500円で計上されているが。

◇交通費は実費なので、今から募集をするので誰がどれだけかかるか分からないので、平均値で500円と計上している。人数に関しては見込み。

●一律の金額ではないのか。

◇報償費ではないので、実費精算となる。全員区間を書いて印鑑をもらうことになる。

●その手間は考慮していないのではないのか。

●費用弁償ではないという確認が必要。

※「需用費の経費削減に努めること。50%の削減を求める。旅費については、費用弁償ではなく実費精算すること」を付すべき条件、特記事項なしで、採択とする。

## 6、赤間にぎわしたい

●時代衣装の予算が多い。

●賑わいをつくってテナントを募集ということは、観客を増やすことはできるが、その辺りを考えてやっていかないと。

●担当課は、きっかけとして利用するということだったが、まつりへの出店と空き店舗の利用は、かなりハードルが高い。商工観光とは話をしているということだったが、テナント誘



致に関しては、十分な調査が必要ではないか。希望は分かるが。

●団体の考え方は甘いと、賑わいは出てくるがそのためだけで良いのか。テナント募集のための調査はしっかりする必要がある。

●付すべき条件にするには、かなりハードルが高くなる。

●需用費については、他の事業とのバランスも考えて同様に減額すべき。

●時代衣装に関しては、どうするか。

●賑わいにプラスになるのか、出店内容とミスマッチはないかなど疑問があった。具体的な出店が決まっていないので何とも言えないが。

●行列で着るのではないのか。

●当日までには参加者の内容も分かるし、経費もはっきりするので、賑わいづくりとしては良いのではないか。

●需用費を半分にすると、補助金は変わる。

●使用料も半額にしてよいのではないか。

●時代衣装は、賑わいづくりには有効かもしれないが。何か手立てはないだろうか。

◇例えば出店者や来場者にアンケートをとって、時代衣装とのマッチングがどうだったかなど調査する方法もあろうかと思う。出店者の赤間宿の印象やテナントとしての意向調査なども。

●モデル事業として認めて、評価を求めては。

※「需用費の経費削減に努めること。50%の削減を求める。出店者や来場者のアンケート等により時代衣装や空き店舗利用の意向や状況を把握すること。」を付すべき条件、特記事項なしで、採択とする。

#### あ、宗像ライフセービングクラブ

●島の方や関係団体との連携協力が挙げられている。

●一つ一つの備品が高価と思う。それを団体に投げ渡すということになるのか。

◇団体の備品として取り扱うのではなく、市のイベントや島のイベントでは自由に使えるようにしている。

●その方が良いと思う。島に残して島で使えるという流れが良いだろう。

※付すべき条件なし、「島の方々や関連団体との連携協力を努めてほしい。」を特記事項として、採択とする。

#### い、宗像アウトドアクラブ

●支出について、積算根拠が未定のものがあるとのことだったので、それはだめだろうと。精査して再提出を求めるべき。

●事業の中身が生煮えのものもあった。

●大島のことを知る機会のことほしい。事業の中身も変わるのだろうか。

※「事業内容を早期に確定し、予算書を再提出すること。」を付すべき条件、「島の魅力を再認識してもらう企画を工夫、検討してほしい。」を特記事項として、採択とする。

## 7、消費者交流会

※付すべき条件、特記事項なしで、採択とする。

## 8、がんばれ宗像！！

●年間 20 回組んでいるが、具体的な話を小中学校にしていないし、少なければ減額すれば良いが。

●減らしなさいということも言えないだろう。

●簡単に考えておられたようだが、実際には難しいのではないかと心配だった。資格を持っているのは 1 人だけで、講座はその人がされるのだろうが。

●今から学校で 20 回というのは、難しくないか。

●コミセンなどで、保護者向けのキャリア教育かと思った。

●学校で、PTA を集めてのキャリア教育のようだ。

◇申請では、教育機関に出向いてと聞いている。コミセンの使用料なども計上されていない。

●実現性に向けての具体的な詰めをするようにということになるのか。

●やりたい事と現場のニーズは違う。

◇関連部署でも、今から教育機関に入ってこの回数というのは難しいということだった。本人が講師として十分に認識されれば、教育機関へのつながりはできるとのこと。

●現場のニーズ把握は必要。

●小学校でのキャリア教育は、まだ根付いていないのでは。

●今年度の中間報告をしてもらってはどうか。

◇実質的には、期間の半分以上で状況を見て変更申請してもらうことがある。その場合、変更申請した額での精算となる。

●9 月には目途をつける必要があろう。

※「実施状況・計画について、9 月を目途に中間報告すること。」を付すべき条件、「教育機関のニーズ把握や連携に努め、実効性のある事業実施に努めること。」を特記事項として、採択とする。

## 9、がんばれ宗像！！

●防犯教室の内容を大幅に変えるような説明だったが、今までは自由参加だったが、小中学校ごとに訪問して実施したいということだったので。申請書の内容と違っている。

●実績が少なかったもので、そうであればということになったようだ。

●前と同様に、防犯教室についての中間報告をも求めたい。

◇中間報告は、文書で提出いただくとして、どのようにチェックするか。

●会長と副会長で確認したい。

※「防犯教室については、実施状況・計画について、9 月を目途に中間報告すること。」を付すべき条件、特記事項なしで、採択とする。

## 10、宗像カノコユリ研究会

※付すべき条件、特記事項なしで、採択とする。

#### **き、社会福祉法人さつき会**

●利益を上げて見せること、それが障がい者の方の励みにつながるのでは。販売戦略にも言及しようとしたが、それに関しては、団体は専門外なので。

※付すべき条件なし、「儲けを出すなど、障がい者のみなさんの励みにつなげてほしい。」を特記事項として、採択とする。

#### **く、公益社団法人宗像青年会議所**

※付すべき条件、特記事項なしで、採択とする。

#### **け、九州女子大学人間生活学科**

●補助終了後も継続してほしい。市にも協力してもらって。

※付すべき条件なし、「関係機関と協力するなどして、継続に努めてほしい。」を特記事項として、採択とする。

#### **《 1 0 3 B 会議室分 》**

##### **1 1、E g ブランダー**

※付すべき条件なし、「より多くの事業所を巻き込んで補助金終了後もネットワークとしての役割を継続してほしい」を特記事項として、採択とする。

##### **1 2、田久有志の会**

●特記事項は「コミュニティとの連携、関わり」。「学生の参画に期待したい」「長期的に実施してほしい」。これをまとめる感じで。

※付すべき条件なし、「コミュニティとの連携を。」「学生への謝礼支出の可否については各大学に問い合わせる必要がある、報償費については見直しの可能性があるのでは。」を特記事項として、採択とする。

##### **1 3、M V C**

●学生の自立のためのさらなる工夫を。学生の参画の点で工夫してほしい。

●情報発信、情報発信の充実という形で。

※付すべき条件なし、「学生参画の工夫」「情報発信の充実」を特記事項として、採択とする。

##### **1 4、吉武地区スポーツ振興協議会**

●特記事項、コミュニティとの連携という風にしていたが、学校との連携もあると思い、コミュニティとの連携は予算の関係上大変とかいう。テントの問題があったと思う。テント2張。でも学校にもあるので借りても大丈夫ではないかと。

●備品が高いからという話があったと思うが、長く活動するためには自前が欲しいというの

が団体の意見。学校や、コミュニティも TENT を何張か持っている。使おうとすれば使えるが、やはり今言う様に自前が欲しい。それを準備したら今度はどこに直すのか。

●その通りで、結局そうやって備品が増えたら今度はどこに直すのか。置く場所がまたいるのでは。

●学校・コミュニティとの連携というところで、予算のスリム化が出来ればしてもらおうということで。

●この話の中で、学校でやる体力テストとかも自分たちで、みたいな趣旨の発言が。そこは深くつっこまなかったし、よくわからなかったが、口頭で体力テスト云々とおっしゃったような気がして、それはちょっと違うのではないかと。

●体力の、4 万円くらい確か計上されていたような。測定器が。

●体力テスト測定器具という風に挙がっている。82 ページ。いわゆる学校の体育として実施する体力テストの測定器具だとすれば、おかしいなと。これは学校でちゃんと買わなければならないような気がする。

●これは特記事項で書く。「学校以外の体力測定に活用のこと」と。

●これは予算的に絞ったり、付すべき条件の方に入れなくて大丈夫か。

●それは、大人の人が学校教育の範疇以外でやったら子供が使ってもいいが。授業の一環でやるような体力テストとかに使うのをこれで買うのはおかしい。

●多分体験教室とかもあるので、地域で使われる部分も大きいと思うが。

※付すべき条件なし、「学校とコミュニティとの連携による予算のスリム化を実施。」「学校以外の体力測定に活用のこと。」を特記事項として、採択とする。

## 15、あおぞらくらぶ

●参加者の広がり。ちょっと人数が少ない気がしたので。

●それから、実施体制の確立を。こちらの方も今後の。

※付すべき条件なし、「参加者増への工夫努力。」「実施体制の確立。」を特記事項として、採択とする。

## 16、玄海寺子屋にじいろの会

●「コミュニティとの連携を」。これは書いていて良いのでは。特記事項として。設立したのは事務局長さんか。自然に出来ているだろうが、さらにコミュニティとの連携をとということ。

●コミュニティとの連携ということで企画提案型になっているので、元々。

●それでは、これはとる。

●コミュニティとの連携ということになってくるとちょっと。今もう完全に確立した、別個という認識。中でつながっていることはあるかも知れないが、表面上はないということがないとおかしい。

●では、これはもうとっておくということで。

●その団体について、団体の安定性のところは私は 0 点にしている。補足をすると、補助金

がないと活動しないとはっきりといったので。自立性、安定性・継続性は私は0点という風に思う。書いて頂く必要はないが、議事録的にしておく。

●特記事項で「自立への検討も行うべき」など書くか。さっき言った寺子屋関係は市の方が全体的に支援する感じがあったが、放課後の対策で。

●行政としては、各コミュニティで学童保育をできないかという話もある。ゆくゆくは吉武がやっているような形でコミュニティでできたらいいね、という話が、市長の意見なのかよくわからないが、そういう話を聞いた。

●学童をコミュニティでやるのは相当大変。

●多分おっしゃったのは、コミュニティが丸抱えになっていないかということを考えているのでは。連携といいながらコミュニティ事業に近いような取り組みをされている。その辺の境目をちゃんとわきまえて、団体の事業としてやってもらうのが、確かに必要なのでは。

●「団体の自立への検討も行う」を入れて。

※付すべき条件なし、「自立への検討も行うべき。」を特記事項として、採択とする。

### 17、ふれあい自然塾の会

※付すべき条件なし、「地域有志の方に関して必要なレクチャーを行うべき。」「子どもたちの接し方、遊ぶ時の安全確保など。」を特記事項として、採択とする。

### 18、まつりのぼせんたい

●この条件は「活動目的については補助対象としてもいいが、今回の提案書では具体的事業の精査が不十分であって不明点が多いことから、補助対象としては厳しい。これは特記事項は採択になればちょっと難しいかもしれないが、上の方の「具体的事業の精査を十分に行うべき」とするか。

●これは他の方の意見で埋まると思うので、私の意見は特段無視して頂いていいが。

●「予算書をもっと明確に」。「事業計画に無理がある」。「組織力の確保」。この3点は入れるべき。

●計画そのものも質問したが、ボランティアスタッフとボランティア芸人の区別がご本人達もついていない。そもそもボランティアスタッフ、要は運営委員会とかに送り込むとかいうのは無理だと思う。事業の考え方として。ただ、これがどの予算の項目に該当するのかもよくわからないので、この項目を落としても何を減額していいのかというのがよくわからない。

※「具体的な事業の精査を十分に行い、予算内容を再考し明確にする。」を付すべき条件、「組織力の確保」を特記事項として、採択とする。

### う、大島小学校PTA

●もう頑張ってもらえない。学校行事、運動会の指導は、本来なら学校に予算があれば、教育委員会、学校の予算でやるべきだと思うが、地域の人も巻き込んで楽しくやっている。運動会も、大島も地島も地域で全島でやっている。もともと全島のものだからあまりこだわる必要はないのかなと。基本的には何もなかったということなので。

※付すべき条件、特記事項なしで、採択とする。

#### **え、地島キャンパスの会**

●これも頑張ってもらっているのです。連携もすでに美術科とできているみたいなので。

※付すべき条件、特記事項なしで、採択とする。

#### **お、元気な地島づくり協議会**

●漁師食堂。特にないが特記事項は何かないか。頑張ってもらいたいなど。さっきもネット販売の話もあったが。

※付すべき条件、特記事項なしで、採択とする。

#### **か、大島を元気にする会**

●あれは多分プレート代とかも全部自分で出して。

●5年間も続けて。ありがたい。

●何かこちらからも計上してもらいたいものもあるのかなど。食べ物ではなくて、例えばTシャツとか。他のところは作ったりしているが。でも今年で終わりか。トヨタは今回終わっても今後も継続してやってほしい。

※付すべき条件、特記事項なしで、採択とする。

#### **19、東海大五高・宗像高定期戦実行委員会**

※付すべき条件、特記事項なしで、採択とする。

#### **20、宗像市レクリエーション協会**

●これは新規事業。こちらの方は「団体存在の発信」。これは大事。「市やコミセンと連携し、インストラクターとして…」これは、色々ご意見が出た。他にないか。レクリエーション介護士なども可能性が大きいと思うが。

※付すべき条件なし、「団体の存在の発信。」「市やコミセン、他団体と連携し、インストラクターとして活動できる場をつくる。」を特記事項として、採択とする。

#### **21、金海・むなかた親善の会**

●これももう3年目の。「事業終了後も継続が出来るように」。「出来るように…努力してほしい」。

●団体が努力するのは、団体がきつい感じがする。

●継続が出来るように、連携するとか。「連携などの働きかけをする」。

●以上だが、心配なのはお祭りのところ。

◇特記事項は実際あまり拘束力はなのかなという感じで、これからサポートしていく立場として、精査して予算を明確化するというような特記事項がついた場合、私たちがどこまで求められるのか。予算書を書き直してくださいというのか、その書き方だとそのまま一年間い

ってしまう可能性もある。

●では「予算内容を再考し明確にする」は付すべき条件の方に移してもいいのでは。減額という訳ではないが。というご意見もあるが、どうか。

●特記事項より付すべき条件の方がきつい訳か。

●もちろんきつい。付すべき条件は基本的にそれをしないとだめだという訳。

●あってもいいと思う。

●では、付すべき条件の方に一応移すということでもいいか。でもそのあと、具体的事業の精査と検討もやってほしい気もするが。

●そしたら新しい予算書をもらったら提出するなど、どういう風にしたらよいか。

●会長、副会長で確認するくらいにするか。用紙を頂いて。

●総額は変えないのか。

●基本的に今のところは総額はそのままという話はしているが。

●だが、付すべき条件だったらそうなる。付すべき条件をきちっとできているかどうかということ、どこかで確認しなければならない。

●少し時間を与えたら失礼な言い方になるかもしれないが、時間をとって、少し。

●予算を見直すにしても、実施内容、事業スケジュールとか予算書が対応していないため、どこをどう変えるというのが、ここが議論がそもそも出来ない。だからああとしか書きようがないような気も。

●事業の審査とか予算の審査とかが合致する整合性を求めるということ。

●それならば、「具体的事業の精査と検討を十分に行い、予算内容を再考し明確にする、という風に、一緒に合わせて付帯事項と。

●そちらも付すべき条件に入れて。委員会と分けるというのは無理だから、会長と事務職局の方でそこはフォーラムにあればもらって確認ということか。メールで確認。どうしていたか。付すべき条件が出て、あれする時。確か予算減額の時もこれだったということでは。

●金額、減額の時はそれを条件につければそうで、それに収めれば支障はないが、前一度予算を再度書き直すと、確か去年あった。提案制度だったか。

●最終的にはここだけでなく、向こうと合わせたところの決定になるので、今までの感じで行った方がいいと思うが。これが付すべき条件だとするとここの確認作業が要る。ただ、全体としての減額までは必要がないというのが大まかな。内容を検討して、会長と副会長、事務局の方で確認させて頂いてよろしいか、全体の会議で申し上げるか。それかメールで回して、皆さんに確認をとって。ただ向こうの皆さんは、資料はあるが分かるかどうか。ここの部会では、まつりのぼせもんたいのところだけが少し課題が。

●要は積算根拠を出してもらおうということ。

●積算根拠もきちんと出してもらおうのもある、基本は。

●富山といったが、全額で出してもらってもいいのかなと。確か一泊で3分の1しか出していなかったような、2万位。

●ただ、今ここで認めている額を超えることは出来ないということで、前提にしないと、またふくらますとちょっと。

●ということでこういった形にしたいが、全体で何かないか。

●やはり一番心配な団体は、先程のところか。初めてということもあり。何年のか、3年か。

●3年。

●今年度しっかり見させて頂いて。

◇一点確認したいことが。金海の会さんで、今回向こうから受け入れるということで宿泊の予算が上がっているが、韓国の方の分も計上されているということで、この点は特に問題はないか。市の方もどうなのかと考えながら。交流なので基本的にはお互い出すべきではないのかと考えているが。

●去年うちが行ったときはどうだったか。

●その時はこちらの分だけは払っていると思う。

●全額払っていたか。

◇はい、旅費など。

●宿泊代は全額。

●宿泊代も旅費も出しているが、宿泊のうち食事代はダメということに。

●宿泊代も出していたか。

●補助金も含めて自分たちで出しているという形。

●その代り食事はダメ。食事除いて宿泊代と旅費は、この補助金で負担するという形。こちらのスタッフの人にかかる分は当然補助金でいいのかなと思うが、向こうから来られる方の分までこの補助金で負担していいものなのかどうなのかは。

●ホームステイはそれぞれ行ったり来たりでそちら同士がホームステイを受け入れるというのは多いことは多いが。

●担当課が今まで金海から来られた方の分を確認できないか。

◇補助金では今まで来たことはない。ここ3年間。一番最初はなかった。去年が初めて向こうに行って3年目で始めて来るようになったので。

●初めてのケースか。

●初めてのケース、この補助金では。

●行ったときは宿泊代はこっちが払ったということでしょう。

◇はい、去年の補助金では。昔親善交流、親善が目的の時はこっちから仕掛ければ当然宗像市が払うべきみたいな考えがあったが、これは親善というよりは、人づくりでまちづくり補助金なので、本来子どもたちの交流が目的だと思われるので、向こうから来られる方の分をこれで負担しても、いいのかなと。

●逆に言えば、正式なあれであればおっしゃる通りだが、活動団体の事業だから出すということも絶対悪いということではないと思うが。正式に交流する場合は多分やり取りしないといけないと思うが、市民活動団体がやっているのを受け入れる〜っというのはあるとは思いますが。その辺のところをどういう風に。付すべき条件ではなく特記事項な何かでそういう働きかけを。

●いや、考え方だけ少し気にかかっていたので。

●市の規定などは全然関係ないのか。



◇市の規定というか補助金の規定なので、旅費のところでは、ちょっと特殊な場合。渡航費用は。基本的には旅費は、通常研修とか。大体活動拠点が市内というのが元々の大前提なので。

●韓国から来る分は向こうが出すのでは。

●韓国から来る分は入っていないはず。

●こちらの宿泊費だけ入っている。

●私は韓国人の方の宿泊を払うことには問題はないのではと思うが、他とのバランスというのと、むしろ宿泊2泊分34万2792円の中に二日目の食事代が入っているとすると、それは多分抜かないといけないと思うが、抜いてあるのか。初日はGAでバーベキューをやるので食事は入っていないと思うが、二日目はそのまま泊まるとなると。朝食は入っているのか。

●GAのパックのものなので、食事代がついている場合はそれを抜いて払わないといけないので、今は。

●そこは多分参加費で賄われていると思うが。そこは最終的に補助金を精算するときに確認させて頂いて。泊まらなくても食費はかかるものなので、食費は当然補助金対象外ということ。

●では一応宿泊も認める方向でということ。先ほどの食事の関係は確認させて頂ければ。※付すべき条件なし、「事業終了後も継続ができるように連携などの働きかけをする。」を特記事項として、採択とする。

### 3. 全体検討会

それぞれの座長から、103A会議室分、103B会議室分の審査結果を報告。

●確認だが、内容を精査して確認が必要とされた分は、会長、副会長及び事務局による確認ということで良いか。

●50%の削減というのは、ピッタリ50%ということか。

●需用費のみ、約50%ということ。

◇削減した額を、団体に提示すべきか。

●どこをどう削減するのは、団体に任せる。

◇計算したところ、赤間サポート隊はトータルの補助金額の50万円は変わらない。需用費にはそこに枠をはめる。赤間にぎわしたいは、補助上限に満たなくなり、その金額で採択となる、ということの良いか。

●上限はここまで、という書き方になるか。

●実際は、そこまで需用費として使わないかもしれないが。精算払いなので。

◇歯止めをかけるということ。

●計画書そのものを書き換えるという作業はいらないか。需用費を見直して計画書を出し直すということは。

◇補助金は変わらないが、予算書自体は変わってくる。

●報告書に影響するか。

◇精算するときに、上限はこの枠だが、3割を上限に認められる。50%の枠と決めれば、3

割ではなく 5 割を超えることはできないとした方が良いと思う。

●向こうも混乱しないように、きちんと伝えてほしい。

●数字というよりも、審議会のメッセージを伝えたかった。考え方が違うのでは、という。地域内でお金が回れば全体調和と言われていた。

●再募集があるとすれば、一旦不採択として、再募集でもう一度出すべきと思われる案件があった。申請書に記載していないものを中心に実施する、内容が精査されてない、このようなものは一旦落としても良いのでは。これは一意見として申し上げる。

●再募集がない、ということになると、今年はチャンスがないということにならないか。

●活動の時期も関係してくるかもしれない。

●あまりにも逸脱しているというものではないのか。

●合計点は満たしている。精査の指導で大丈夫ではないか。

●予算内容を再考し明確にする。明確にするとは、再提出なのか、ただ明確にするのか。

●事業自体の精査と検討なので、事業自体を詳しく詰め直して、ということ。再提出を求める。その旨明確に記した方がよいだろうか。

●付すべき条件の表現としては、事業内容を早期に確定し、予算書を再提出することにしてはどうか。

◇付すべき条件で、分かりやすい広報や関係機関との連携などの表現があるが、もう少し具体的な表現の方が良いのではないか。特記事項と重複しているものもある。

●付すべき条件は明確な条件を記すべきなので、特記事項としてはどうか。

◇予算書の再提出の期限は。交付決定書に記載するので。

●予定されている交付決定の時期に、該当する団体は交付決定すべきではないと思う。統一された時期に交付決定すべき、とはなっていないと思う。

●付すべき条件というのは、その条件が満たされたときに初めて予算化する。

●それまでに再提出されて確認が取れているか、間に合わなければその時点では交付決定しない。このいずれかになるのではないか。

●例えば、ボランティアスタッフはやめた方が良いという意見が、委員から出されたということは伝えていただきたい。それが一つの考え方になるだろう。あまりにも大雑把なので。ボランティアの芸人は理解できる。スタッフの育成は外して考えた方がよい。

◇団体から再提出いただき、会長副会長に確認いただいて事務処理をする。それから逆算して、提出すべき時期を団体に伝えたい。

◇交付決定の期日に特段の意味合いや拘束力がある訳ではない。当該団体については、再提出があった時点で、別途交付決定の事務処理を行うことになるだろう。そのことをご理解いただければと思う。

●修正の方法について、何か方策はあるか。

●支出の経費の内訳を作ろうというのではなくて、どういうことをやって、これに幾らかかるというのを書き出してもらって、それを基にどれがどの経費にあたる、と考えるべき。

●ボランティアスタッフの件は個人的な意見。いずれにせよ事業内容とそれに応じた予算は何かということを明らかにする。その旨を伝えてほしい。

●予算書と計画書で、団体数が4団体だったり5団体だったりしているので、整合が取れるように。

●意欲は感じるが、それだけではダメ。

●減額とされた団体についても、再提出になるのか。

◇団体で組み直しても、これ以上は削減できないということになれば、それは自己資金等で賄うことになる。補助対象経費がここまで、という制限を付ければ大丈夫と思う。

●その他なければ、この内容で決定したい。

◇変更箇所を読み上げるので、確認いただきたい。

●（了）

#### 4. その他

##### （１）二次募集の実施について

人づくりでまちづくり補助金 予算；8,000千円、補助額；約6,700千円

元気な島づくり事業補助金 予算；3,200千円、補助額；約2,104千円

二次募集の実施について、審議会の意見を伺いたい。

《質疑等》

●二次募集の実施は、市が決定するものではないのか。

⇒昨年は、100万円未満だったので、市で実施しないと決めて、審議会で承諾をいただいた。

●審議会で決めることではないのではないか。執行部で決めていただいたら。市が責任もって決めていただいて、それを審議会で審議すべき内容がでてきたら、審議する。

●二次募集の実施は市の判断で。実施するのであれば、早めに知らせてほしい。

##### （２）その他

審議会の予定は、今のところない。部会については、改めて日程調整させていただく。

＝ 散 会 ＝